

消防年報

平成 21 年版



高萩市消防本部

は し が き

本書は、高萩市の現勢及び平成21年中の消防業務に関する諸般の事項を集録し広く消防事情を紹介するために編集したものです。

この統計は、平成22年3月31日現在をもって作成したのですが、これによらないものについてはそれぞれ記載した年月日現在より作成しました。

平成22年4月

高萩市消防本部



平成22年高萩市消防出初式 社会福祉法人 同仁会 同仁東保育園

消 防 人 訓

わたくしたち消防人は、消防が水火災等の災害を防除し、社会公共の安寧と福祉に寄与することの甚大なことを自覚し、つぎのことを心情として一意住民に奉仕します。

- 一 消防人は勇気を尊ぶべし
- 一 消防人は迅速を旨とすべし
- 一 消防人は責任を重んずべし
- 一 消防人は規律を正しくすべし
- 一 消防人は協同一致すべし

昭和41年6月5日制定



平成22年高萩市消防出初式 高萩市消防団

目 次

位置と面積	1
管内の概況	2
常備消防のあゆみ	3～5
消防の沿革	6～8
消防分布図	9
消 防 総 務	
高萩市消防本部組織機構図	10
消防本部・署の分掌事務	11
1 面積・人口・世帯数	12
2 市予算と消防予算	12
3 人工及び1世帯当たりの消防費	12
4 消防職員及び消防団員1人当たりの人口・世帯	12
5 消防庁舎の現況	13
6 消防現勢	13
7 消防職員関係	14
(1) 職員の配置状況	14
(2) 職員数の定員及び実員数	15
(3) 消防吏員の階級及び年齢調	15
(4) 消防吏員の勤続年数調	15
(5) 職員技能資格取得調	16
(6) 職員教育実施状況調(平成21年度)	17
8 消防相互応援協定(平成22年3月31日現在)	18
予 防	
1 火災発生の状況	19
(1) 火災件数	19
(2) 月別火災発生状況	19
(3) 月別種別火災発生状況	20
(4) 曜日別火災発生状況	20
(5) 時間別火災発生状況	21
(6) 建物焼損床面積等	21
(7) 建物用途別被害状況	22
(8) 主な火災の原因	22
(9) 損害額	23
2 火災の推移(過去10年間)	24
(1) 出火件数	24
(2) 損害額	24
3 防火対象物現況(150㎡以上)	25
4 防火管理者選任及び4階以上の中・高層建築物現況表	26
5 建築同意月別用途別状況	27
6 月別建築確認受理件数	28
危 険 物	
1 危険物関係申請及び届出	29
2 危険物規制対象調(完成検査済証交付施設)	29
3 危険物製造所等一覧表	29
4 類別・危険物製造所等一覧表	30

警 防

1	消防活動状況	31
	(1) 警防活動状況（消防署が出場及び実施したもの）	31
	(2) 消防訓練等指導調	32
2	警防関係申請及び届出	32
3	消防水利の現況	32

救 急 救 助

1	救急取扱件数	33
2	過去10年の推移	33
3	年齢区分別搬送人員状況	34
4	傷病程度別搬送人員状況	34
5	男女別搬送人員状況	34
6	発生場所別搬送人員状況	34
7	管轄内・管轄外搬送件数別状況	35
8	応急手当講習会実施状況	35
9	救助出場件数状況	35

機 械

1	消防ポンプ機械の現況	36
2	特殊器具の状況（警防・救急救助器具）	37・38

通 信

1	消防無線局施設調べ	39
2	緊急通報システム系統図	40

気 象

1	月別気温・湿度・風向・風速・雨量（5年間）調	41
2	月別警報調	42
3	月別天候調	42

消 防 団

1	消防団の組織機構図	43
2	消防団現勢	44
3	消防団員の定員数と実員数	44
4	消防団員の勤続年数	44
5	消防団員の年齢	44
6	消防団出場回数調	45
7	消防団ポンプ機械の現況	46

外 郭 団 体

	高萩市山林防火普及協会	47
	高萩市防火管理者協議会	48
	高萩市危険物安全協会	49
	高萩市婦人消防クラブ連絡協議会	50

位置と面積

位置

高萩市消防本部

高萩市東本町 3 丁目 11 番地

東経 140° 43' 19" 北緯 36° 42' 48"

面積

193.65km²



管内の概況

1. 位置と地勢・気候

高萩市は、茨城県の北東部に位置し、東は太平洋に面し、西は阿武隈山系南端の多賀山地が連なっている。

北部は県北端の北茨城市、西部は常陸太田市に接しており、首都東京から 150km 圏内に位置し、県庁所在地の水戸市の北約 45km の地点にある。

面積は 193.65 k^m²（東西 17.6km、南北 20.0km）

気候は、東日本型気候に属し、太平洋に面しているため、県内の内陸部に比べると冬は温暖で夏は涼しくなっている。

なお、山間部は海拔 300~500m という地理的条件により、海岸部より年平均気温が約 2 度低い内陸性気候を示している。

2. 沿革

当市は古くは万葉の歌人、高橋虫麻呂も「遠妻し高にありせば知らずとも手綱の浜の尋ね来なまし」と歌っているように歴史と伝統の由緒ある街で、古くは松原千軒、稲村千軒、赤浜千軒とその繁栄の姿が史実に残っているとおり、古代繁昌の地であったことは多くの出土品からも伺い知ることが出来る。

中世においては、大塚氏が松岡に童子城を築城し当地方を治めたが関ヶ原合戦以後慶長 7 年戸沢氏の所領となり、以後戸沢氏は 20 年間この地を治めたが元和 8 年（1622 年）に徳川の時代を迎えて新庄（現在の山形県新庄市）の加増のうえ国替えとなり領地は水戸藩のものとなったが、以後正保 3 年（1646 年）水戸藩の附家老中山氏が知行地として拝領することとなり、明治元年には松岡藩として独立し、明治 2 年藩籍奉還に至るまで中山氏の城下町として発展した。

明治以降は郡役所、税務署、営林署、警察署等が設置され地方における政治経済の中心的な役割を担いつつ今日に至る都市基盤が確立された。

更に地域の産業においても常磐炭田の南端に位置する石炭産業のまちとして、又江戸時代から林業と馬の産地として発展を見せた。

昭和 29 年 11 月 23 日に高萩町、松岡町、高岡村と黒前村の一部が合併して高萩市が誕生した。昭和 30 年代に入ってエネルギー革命が進む中で石炭産業は次第に斜陽化の道をたどり、昭和 43 年に石炭産業としての歴史は閉じられ、それに伴い人口も減少を見るにいたった。その後在来の木材加工業や、昭和 29 年に誘致したパルプ工場をはじめ、松久保、手綱、手綱B 工業団地に誘致した企業の着実な進展にともない人口も回復し新しい産業都市を目指した基盤整備が民間活力を生かしつゝ計画的に実施されている。更に 21 世紀を展望した新総合計画「海と緑を生かした産業文化都市」の創造のために、大きな期待をしていた常磐自動車道が福島県富岡 IC まで開通し、高萩市も広大な自然を背景とした大型リゾート地域の開発が企画されており、「日本の渚百選」に選ばれた高戸海岸を始め、美しい砂浜や海食崖などが広がる海岸の整備事業、一方緑豊かな山間地域においては、その基盤となる道路網の整備と小山ダム周辺のレークサイドリゾートの形成や新たなライフスタイルに対応した生活空間の創造のための整備事業計画を策定し、輝く未来にむけて着実な躍進が期待されている。

常 備 消 防 の あ ゆ み

昭和40年	4. 1 6. 8	高萩市消防本部（署）発足 消防吏員総員 21 名 初代消防長 安村 篤氏（市長事務取扱） 署長 岩本 啓治氏（助役）就任 水槽付ポンプ自動車 1 台にて消防業務開始
昭和41年	4. 1 6. 5	消防吏員 2 名採用 総員 23 名 消防署長に中山 実氏 就任
昭和42年	3. 31 4. 1	消防吏員 1 名退職 消防吏員総員 22 名
昭和43年	4. 1	消防吏員 1 名採用 総員 23 名
昭和44年	4. 1 7. 1 12. 1	消防吏員 13 名採用 総員 26 名 救急業務を開始する 第 2 代消防長 中山 実氏（署長兼務）就任 救急自動車配置
昭和45年	4. 1 6. 5 9. 20	消防吏員 2 名採用 総員 28 名 その他の職員市役所より 1 名出向 指令車配置 消防ポンプ車増設 庁舎(389.89 m ²)が狭隘になったため鉄筋コンクリート 2 階建 133 m ² 増築
昭和46年	4. 1	消防吏員 2 名採用 総員 30 名 その他の職員 1 名
昭和47年	4. 1	消防吏員 3 名採用 総員 33 名 その他の職員 1 名
昭和48年	4. 1 6. 1	消防吏員 1 名採用 総員 34 名 その他の職員 1 名 第 2 代消防長 中山 実氏 退任 第 3 代消防長に助役 下山田 一郎氏（事務取扱）就任 消防ポンプ自動車購入
昭和49年	7. 1	第 3 代消防長 下山田 一郎氏（事務取扱）退任 第 4 代消防長に本郷 芳氏（署長、課長兼務）就任 救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置
昭和50年	4. 1	消防吏員 5 名採用 総員 38 名 その他の職員 1 名
昭和51年	9. 30	第 4 代消防長 本郷 芳氏 退任 第 5 代消防長 佐藤 健雄氏（署長、課長兼務）就任
昭和52年	2. 12 12. 15	救急自動車（関彰商事株式会社より寄贈）配置 水槽付消防ポンプ自動車 1 台配置
昭和53年	4. 1	消防吏員 2 名採用 総員 40 名 その他の職員 1 名
昭和54年	4. 1	高萩市・十王町事務組合消防本部発足 初代消防長 佐藤 健雄氏 就任 消防吏員 21 名採用 総員 61 名 十王分署開設（本部 7 名 高萩消防署 33 名 十王分署 21 名）
昭和55年	3. 26 4. 1	十王分署救急自動車（山之内製薬より寄贈）配置 消防吏員 1 名採用 総員 62 名（本部 8 名 高萩消防署 33 名 十王分署 21 名）
昭和56年	4. 30 7. 1	初代消防長 佐藤 健雄氏 退任 第 6 代消防長に管理者 鈴木 藤太氏（消防事務取扱）就任 第 7 代消防長 石田 富吉氏 就任
昭和57年	12. 9	高萩消防署に消防ポンプ自動車（CD-II型）配置 消防ポンプ自動車廃車（45年購入）

昭和 59 年	4. 1 8. 20	消防吏員 2 名採用 総員 64 名 新庁舎完成 鉄筋コンクリート 2 階建 (1 階 668.20 m ² 、2 階 593.03 m ² 、延面積 1,261.23 m ² 訓練塔 2 棟併設 144 m ² (高さ 17m と 7m)、外高圧充填所 RC 造 10.25 m ²)
昭和 61 年	3.31 4. 1 7. 1 9. 30	第 7 代消防長 石田 富吉氏 退任 第 8 代消防長管理者 鈴木 藤太氏 (消防長事務取扱) 就任 第 9 代消防長 大都 直教氏 就任 消防吏員 1 名 退職 総員 62 名
昭和 62 年	1. 31 4. 1	消防吏員 1 名 退職 総員 61 名 消防吏員 3 名 採用 総員 64 名
昭和 63 年	12. 27	救急自動車 (山之内製薬より寄贈) 配置
平成 2 年	11. 4	消防吏員 1 名退職 総員 63 名
平成 3 年	3. 2 4. 1	十王分署 消防ポンプ自動車 (BD-I) 配置 消防吏員 4 名採用 総員 67 名 その他の職員 1 名採用
平成 4 年	4. 1	十王分署が十王消防署に昇格 消防吏員 5 名採用 総員 72 名 その他の職員 1 名
平成 5 年	3. 25 3. 31 4. 1 11. 12	ひとり暮らし緊急通報システム開所 第 9 代消防長 大都 直教氏 退任 第 10 代消防長に木村 進氏 就任 消防吏員 5 名採用 総員 76 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 75 名 その他の職員 1 名
平成 6 年	4. 1	消防吏員 5 名採用 総員 80 名 その他の職員 1 名 茨城県立消防学校に講師として 1 名派遣
平成 7 年	2. 10 3. 31 4. 1 12. 31	高萩消防署 屈折はしご付消防自動車配置 消防吏員 2 名退職 総員 78 名 その他の職員 1 名 消防吏員 5 名採用 総員 83 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 82 名 その他の職員 1 名
平成 8 年	4. 1	消防吏員 6 名採用 総員 88 名 その他の職員 1 名
平成 9 年	4. 1 4. 1	消防吏員 2 名採用 総員 90 名 その他の職員 1 名 県防災航空隊に 1 名派遣
平成 10 年	3. 4 3. 31 4. 1	高萩消防署高規格救急車配置 第 10 代消防長 木村 進氏 退任 第 11 代消防長に金沢 英雄氏 就任 消防吏員 1 名採用 総員 90 名 その他の職員 1 名
平成 11 年	1. 20 4. 1	高萩消防署事務室を講堂に移動 旧署事務室を指令室 緊急指令室開所
平成 12 年	3. 31 4. 1 4. 1	第 11 代消防長 金沢 英雄氏 退任 消防吏員 2 名退職 総員 87 名 その他の職員 1 名 第 12 代消防長に坪 和久氏 就任 消防吏員 2 名採用 総員 89 名 その他の職員 1 名 県生活環境部消防防災課に 1 名派遣
平成 13 年	1. 25 4. 1	十王消防署 高規格救急車配置 消防吏員 2 名採用 総員 91 名 その他の職員 1 名
平成 14 年	3. 31 4. 1	第 12 代消防長 坪 和久氏 退任 第 13 代消防長に佐藤 勝彦氏 就任 消防吏員 2 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名

平成 15 年	4. 1 10. 5	高萩消防署 救助工作車配置 消防吏員 1 名採用 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名
平成 16 年	3. 31 4. 1 7. 1 11. 1	第 13 代消防長 佐藤 勝彦氏 退任 消防吏員 1 名 退職 第 14 代消防長に皆川 泰男氏 就任 消防吏員 1 名採用 総員 91 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名採用 総員 92 名 その他の職員 1 名 高萩市・日立市事務組合消防本部に名称変更
平成 17 年	4. 1 4. 1	消防吏員 5 名採用 総員 97 名 その他の職員 1 名 県防災航空隊に 1 名派遣
平成 18 年	3. 16 3. 31 4. 1	十王消防署 消防ポンプ自動車 (CD- I) 配置 消防吏員 2 名退職 総員 95 名 その他の職員 1 名 消防吏員 5 名採用 総員 100 名 その他の職員 1 名
平成 19 年	3. 31 4. 1 4. 1 7. 31 10. 30	第 14 代消防長 皆川 泰男氏 退任 消防吏員 11 名退職 第 15 代消防長 河野 泰喜氏 就任 茨城県立消防学校に講師として 1 名派遣 消防吏員 5 名採用 総員 94 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 93 名 その他の職員 1 名 消防吏員 1 名退職 総員 92 名 その他の職員 1 名
平成 20 年	3. 31 4. 1	第 15 代消防長 河野 泰喜氏 退任 消防吏員 7 名退職 高萩市・日立市事務組合消防本部解体に伴い全職員が高萩市・日立市事務組合を退職 高萩市消防本部発足 十王消防署 日立市消防本部に移管 高萩市・日立市事務組合消防本部職員中、60 名(消防吏員 59 名その他の職員 1 名)が高萩市消防本部職員として採用される 26 名は日立市消防本部へ採用 第 16 代消防長 小野 眞氏 就任 消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 うち市役所より 1 名出向
平成 21 年	4. 1 9. 26 3. 31	消防吏員 総員 59 名 その他の職員 2 名 うち市役所より 1 名出向 県防災航空隊に 1 名派遣 高萩消防署 高規格救急自動車 ((社) 日本損害保険協会より寄贈) 配置 消防吏員 1 名退職

消 防 の 沿 革

高萩市消防団

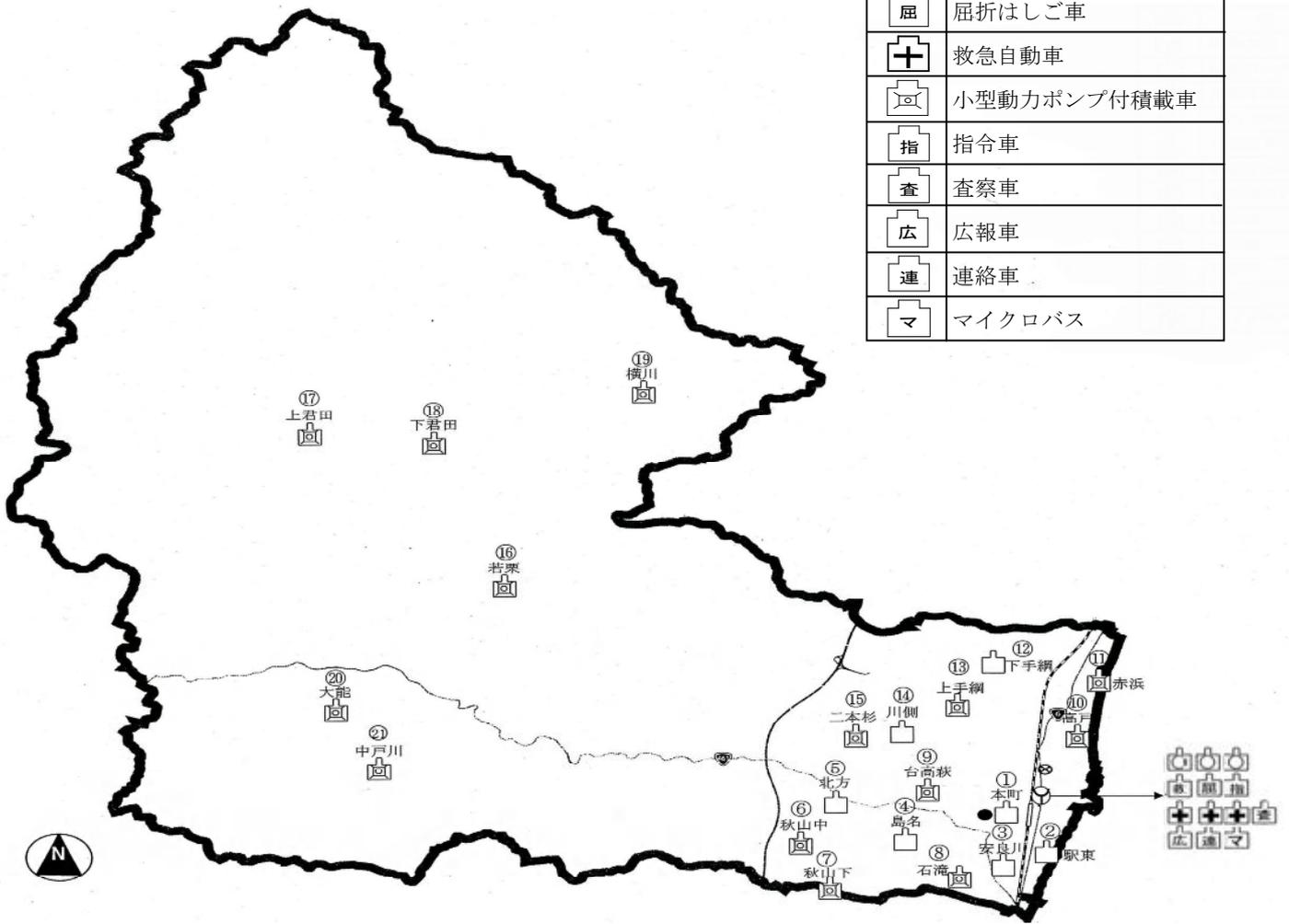
- 1 消防制度は明治27年(1894年)2月勅令第15号で消防規則が公布されたことにより、明治31年(1898年)1月本県令第1号をもって消防組規則施行細則が公布されたが、当地方では松原町消防組が明治27年(1894年)8月に設置され、続いて明治31年11月松岡村消防組、高岡村消防組がそれぞれ設置された。
- 2 大正11年当時の消防組としては、松原組一円を区域とする松原消防組(組頭1、小頭28、部長6、消防手289)、松岡村一円を区域とする松岡村消防組(組頭1、小頭17、消防手171)の外は私設消防組として関口、千代田、秋山の炭鋤消防組があった。その後、昭和8年現在の松原町消防組は部数7(高萩、安良川、島名、秋山、北方、石滝)ガソリンポンプ2台、腕用ポンプ7台で、当時の組頭は石平之丞氏であり、その頃の火災出場件数は、昭和7年8回、昭和8年4回であった。
- 3 その後、消防組の組織の活動はたいした変化はみられなかったが、昭和12年(1937年)7月日華事変が勃発し戦争が熾烈化するにつれ、消防組の重要性が次第に認識され、昭和14年消防組は警防団と改編され、組織の拡充が図られ、従来の防火、水防対策にしばられていた消防活動は、勢い戦争目的遂行のため国策に協力すべく大幅に拡大された。即ち防火、防空、水難救助対策は勿論、自警、避難の誘導、防空壕掘り、出征兵士留守家族の手伝い、勤労奉仕等あらゆる活動を展開するに至った。
- 4 戦後は、昭和22年(1947年)の消防制度の改革により、昭和22年7月高萩町消防団及び高岡村消防団、昭和23年6月松岡町消防団が各発足し、各新しい市町村の消防制度に切り換えられたが、施設等は殆ど戦前の状態であった。
- 5 昭和29年(1954年)11月23日、町村合併により高萩市の誕生をみるに至り、消防組織も高萩市消防団として統合され、当初は3支団、21ヶ分団、団員731名で初代団長は矢代良三氏が就任した。次に、昭和31年4月1日、消防団機構の改革を実施し、支団制を廃して21ヶ分団、団員445名に削減し、第2代団長に沼田吉人氏が就任した。次に昭和32年4月1日、分団統合を行い、8ヶ分団21部制に改編、さらに昭和36年12月1日に分団再編成を行い、3ヶ分団を増設11ヶ分団21部となり、昭和39年4月第3代団長に鳥居塚鉄治氏が就任した。
- 6 昭和41年第4分団、昭和43年第1分団及び第5分団の各消防ポンプ自動車を更新し、消防団の組織も指揮統制、昭和44年4月1日から21ヶ分団制に改編し、第4代の団長に穂積政次氏が就任した。
- 7 昭和46年第14分団に消防ポンプ自動車を配置した外、日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第12分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図る第一着手として、国県費補助を得て小型動力ポンプ付積載車3台、昭和47年に1台を購入し、第17、第18、第19、第20分団に各配置し、昭和48年度には同じく2台を購入し、この計画の完成を見る等、消防力は画期的な前進を見るに至った。
- 8 消防水利のうち、消火栓の整備は昭和43年から昭和48年度までに222基が完了し、昭和48年4月1日から水道事業開始に伴い使用可能となり、従来の防火貯水槽と合わせて消防水利設置基準の82%が達成できた。
- 9 消防団の指揮統率上副団長2名を3名に改め、昭和49年4月1日から実施した。
- 10 昭和50年12月10日第9分団に昭和51年12月25日第10、11分団に小型動力ポンプ付積載車を配置、全分団の機動化が完了した。
- 11 昭和53年2月18日第8分団車老朽のため更新した。
- 12 昭和54年3月20日第7分団、第15分団の積載車、昭和54年11月20日第3分団の消防ポンプ自動車を各々老朽のため更新した。
- 13 昭和55年12月13日第2分団消防ポンプ自動車第6分団可搬動力ポンプ付積載車を各々老朽のため更新した。
- 14 昭和57年3月第9分団消防詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り2階建延38.88㎡の車庫兼詰所を新築した。
- 15 昭和57年8月第9分団に配置してある可搬動力ポンプ老朽化に伴い更新し、体制の強化を図った。

- 16 昭和 57 年 12 月第 1 分団詰所兼車庫老朽化に伴い取り壊し新たに鉄骨造り 2 階建延 59.76 m²の詰所兼車庫を新築した。
- 17 昭和 58 年 3 月消防庁長官より優良消防団として表彰旗を受領した。
- 18 昭和 58 年 4 月 1 日副団長豊田恒氏退団に伴い副団長に鈴木彰氏が就任した。
- 19 昭和 59 年 4 月 1 日副団長下山田義郎氏退団に伴い副団長篠原新一郎氏が就任した。
- 20 昭和 60 年 3 月 29 日第 19・20・21 分団の可搬動力ポンプ老朽のため更新した。
- 21 昭和 60 年 4 月 1 日副団長黒尾良氏退団に伴い副団長に大部正氏が就任した。
- 22 昭和 61 年 2 月第 16 分団消防詰所道路拡張工事に伴い移転改築した。ブロック造り平屋建 22.93 m²。
- 23 昭和 61 年 3 月第 5 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 24 昭和 61 年 8 月日本損害保険協会よりの寄贈による消防ポンプ自動車を第 4 分団に配置し、市街地より遠隔の地にある山手地域の消防力の機械化を図った。
- 25 昭和 61 年 11 月第 1 分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新し消防体制の強化を図った。
- 26 昭和 62 年 4 月 1 日副団長大部正氏退団により小林高弘氏が就任した。
- 27 昭和 62 年 9 月 1 日副団長小林高弘氏退団により沼田浩氏が就任した。
- 28 平成元年 3 月第 19 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し消防体制の強化を図った。
- 29 平成元年 4 月 1 日副団長鈴木彰氏退団に伴い鈴木健二氏が就任した。
- 30 平成元年 10 月第 12 分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 31 平成元年 12 月第 20 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 32 平成元年、平成 2 年度にわたり第 12 分団詰所改築並びに外構工事を行い施設の整備を図った。
- 33 平成 2 年 12 月第 14 分団自動車ポンプ老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 34 平成 3 年 3 月第 17 分団積載車老朽化に伴い更新し設備の強化を図った。
- 35 平成 3 年 10 月第 21 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 36 平成 3 年 10 月第 16 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 37 平成 3 年 10 月第 16 分団（防災町づくり）第 21 分団（水力発電施設周辺地域整備事業）の積載車を更新し設備の強化を図った。
- 38 平成 4 年 3 月第 18 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延 40.32 m²の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 39 平成 5 年 3 月第 18 分団積載車老朽化に伴い水力発電施設周辺地域整備事業で更新し設備の強化を図った。
- 40 平成 5 年 3 月第 17 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋瓦葺建延 50.32 m²の車庫兼詰所を改築し施設の整備を図った。
- 41 平成 5 年 11 月 5 日平成 5 年度茨城県高萩市総合防災訓練を高萩市立君田小学校、君田中学校を会場に 104 機関・団体の参加をえて実施した。
- 42 平成 6 年 3 月第 9 分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 43 平成 7 年 3 月第 11 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積 50.32 m²の赤浜地区コミュニティー消防センターを改築、同時に第 11 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 44 平成 7 年 12 月 31 日団長穂積政次氏退団により第 5 代団長に篠原新一郎氏が就任した。
- 45 平成 8 年 3 月第 10 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延 50.07 m²の高戸地区コミュニティー防災センターを改築、同時に第 10 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 46 平成 9 年 3 月第 8 分団詰所兼車庫老朽化に伴い木造平屋建延面積 50.07 m²の石滝地区コミュニティー防災センターを新築、同時に第 8 分団積載車老朽化に伴い防災町づくり事業により更新し設備の強化を図った。
- 47 平成 9 年 3 月第 5 分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造 2 階建延面積 70.73 m²を水力発電施設周辺地域整備事業により改築し、分団施設の整備を図った。

- 48 消防団の指揮統率上副団長3名を4名に改め、平成9年4月1日から実施、同年4月2日付で、副団長に岩間輝亘氏が就任した。
- 49 平成10年9月財団法人日本消防協会より小型動力消防ポンプ（B-II級）付積載車の寄贈を受け、第15分団に配置した。
- 50 平成11年3月第7分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 51 平成11年4月副団長鈴木健二氏退団により、鈴木廣美氏が就任した。
- 52 平成12年3月第3分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
平成12年3月第6分団積載車老朽化に伴い更新し、設備の強化を図った。
- 53 平成12年4月副団長沼田浩氏退団により、大高忠氏が就任した。
- 54 平成12年9月第2分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 55 平成13年4月第7分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積51.95㎡の秋山下コミュニティ消防センターを新築した。
- 56 平成14年3月第19分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積50.32㎡の横川コミュニティ消防センターを新築した。
- 57 平成15年3月第4分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積76.18㎡の消防団詰所新築
- 58 平成16年6月第14分団詰所兼車庫老朽化に伴い、木造平屋建延面積65.41㎡の消防団詰所新築
- 59 平成17年4月1日団長篠原新一郎氏退団により第6代団長に細金秀隆氏が就任し、副団長に作山吉平氏が就任した。
- 60 平成19年1月第4分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 61 平成20年3月第5分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 62 平成20年5月第1分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 63 平成21年4月1日副団長岩間輝亘氏退団に伴い副団長中村泰治氏が就任した。
- 64 平成21年9月第12分団消防ポンプ自動車老朽化に伴い更新車両（CD-I型）を配備し、設備の強化を図った。
- 65 平成22年2月財団法人日本消防協会より、優良消防団として表彰旗を受領した。
- 66 平成22年2月総務省消防庁より、小型動力消防ポンプ（B-II級）付積載車の無償貸し付けを受け第19分団に配備した。

消防分布図

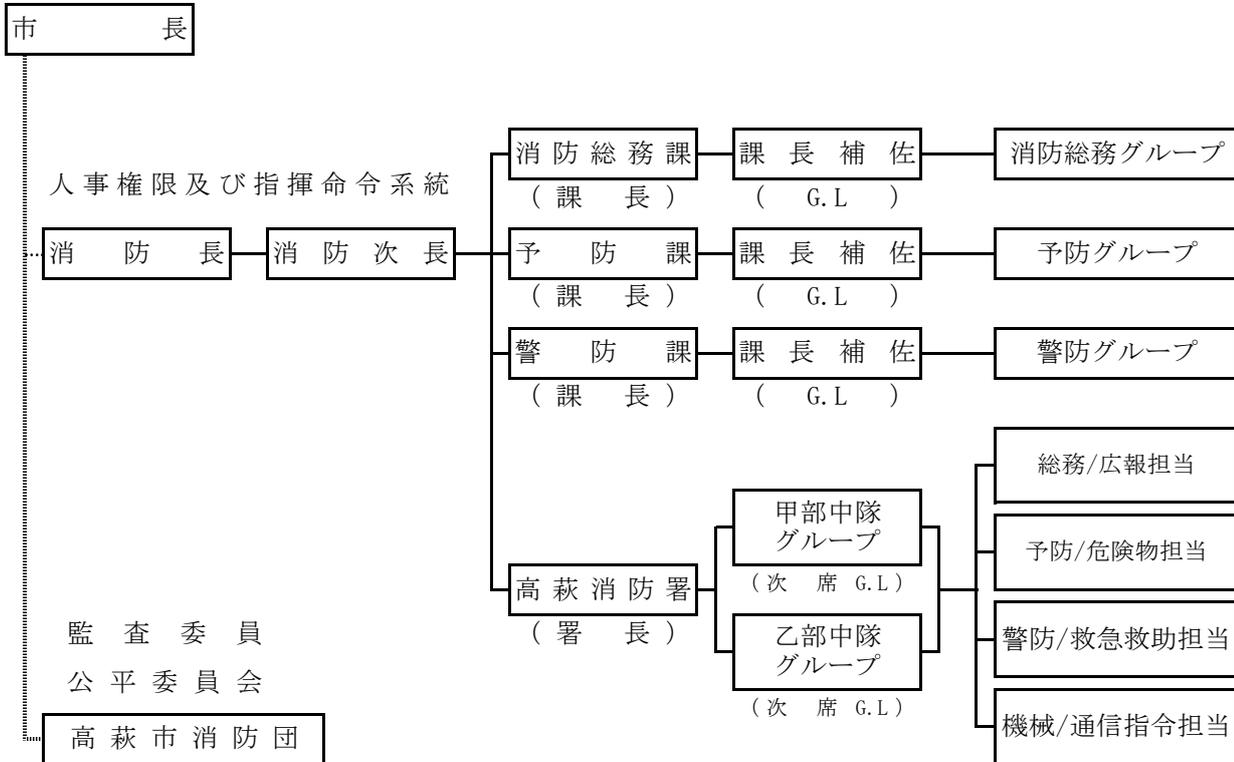
記号	種 類
	消防本部・署
	消防ポンプ自動車
	水槽付消防ポンプ自動車
	救助工作車
	屈折はしご車
	救急自動車
	小型動力ポンプ付積載車
	指令車
	査察車
	広報車
	連絡車
	マイクロバス



消 防 総 務

高萩市消防本部組織機構図

(平成 21年 4月 1日現在)



災害時における指揮命令系統 (消防組織法第18条第3項)

消防本部・署の分掌事務

消 防 本 部	消 防 総 務 課	消 防 総 務 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 公印の保管に関する事 (2) 公文書の收受、発送、整理及び保存に関する事 (3) 条例、規則、規程、告示等に関する事 (4) 議案及び議会に関する事 (5) 消防団に関する事 (6) 予算編成及び予算執行に関する事 (7) 物品の調達及び検収に関する事 (8) 所管に属する建物及び附属施設の保守管理に関する事 (9) 組織に関する事 (10) 職員の任免、賞罰、服務その他身分に関する事 (11) 職員の研修に関する事 (12) 職員の福利厚生に関する事 (13) 職員の公務災害に関する事 (14) 職員の安全衛生委員会及び職員委員会に関する事 (15) 職員の表彰に関する事 (16) 職員の給与及び旅費に関する事 (17) 被服等の貸与に関する事 (18) その他職員に関する事 (19) その他他の課に属さない事務 	消 防 署	総 務 ／ 広 報 担 当	<ul style="list-style-type: none"> (1) 文書の收受、発送、整理及び保存に関する事 (2) 署員の教養訓練及び服務規律に関する事 (3) 署員の福利厚生及び衛生管理に関する事 (4) 庁舎及び附属施設の保守管理並びに備品の管理に関する事 (5) その他他の担当に属さない事 (6) 防火思想の普及広報に関する事 (7) 防火相談に関する事 (8) 消防統計に関する事 (9) 消防年報の発行に関する事 (10) 火災予防運動に関する事 (11) その他総務に関する事 (12) その他広報に関する事
		予 防 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 防火思想の普及広報に関する事 (2) 火災予防査察に関する事 (3) 火災の原因調査及び損害調査に関する事 (4) 防火管理者の資格を与える講習及び指導に関する事 (5) 火災のり災証明に関する事 (6) 火災予防条例に関する事 (7) 建築確認の同意に関する事 (8) 防火対象物の使用届及び消防用設備検査の指導に関する事 (9) その他予防全般に関する事 (10) 危険物施設等の許認可及び検査指導に関する事 (11) 液化石油ガスの保安の確保及び取引の適正化に関する法律等に係る意見書に関する事 (12) 指定可燃物に関する事 (13) その他危険物全般に関する事 		予 防 ／ 危 険 物 担 当	<ul style="list-style-type: none"> (1) 火災予防及び査察に関する事 (2) 火災の原因調査に関する事 (3) 消防用設備等の検査及び維持管理の指導に関する事 (4) 火災予防組合の指導に関する事 (5) 火災予防条例に関する事 (6) その他予防に関する事 (7) 少量危険物の貯蔵取扱に関する事 (8) 指定可燃物に関する事 (9) その他、危険物に関する事
	警 防 グ ル ー プ	<ul style="list-style-type: none"> (1) 水火災その他の災害の警戒及び防御に関する事 (2) 警戒計画に関する事 (3) 消防力の整備指針に関する事 (4) 緊急消防援助隊に関する事 (5) 救助技術の研究及び訓練の指導に関する事 (6) 諸訓練の安全管理に関する事 (7) 自衛消防隊の育成指導に関する事 (8) 警戒に関する統計及び消防年報作成に関する事 (9) その他警戒全般に関する事 (10) 消防施設整備に関する事 (11) 消防水利施設の調査、同意及び管理に関する事 (12) 消防機械器具の維持管理に関する事 (13) 消防機械の燃料及び機械部品の出納管理に関する事 (14) 機械器具の操作及び指導に関する事 (15) 車両の安全運行管理に関する事 (16) 各種災害の通報の受信及び出動指令に関する事 (17) 通信指令施設の運用及び維持管理に関する事 (18) 無線通信事務に関する事 (19) 災害の情報収集に関する事 (20) 火災警報及び気象情報に関する事 (21) 救急救助業務の管理及び計画に関する事 (22) 救急救助備品及び消耗品の出納管理に関する事 (23) 救急救助技術の指導、訓練及び教育に関する事 (24) 応急手当普及啓発に関する事 (25) 救急救助の搬送証明に関する事 (26) 救急救助医療機関との連絡調整に関する事 (27) 救急救助統計及び報告に関する事 (28) メディカルコントロール体制に関する事 (29) その他救急救助全般に関する事 	警 防 ／ 救 急 救 助 担 当		<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防水利の維持管理に関する事 (2) 消防資機材の整備保管に関する事 (3) 諸警備及び警戒に関する事 (4) 自衛消防隊の指導育成に関する事 (5) その他警戒に関する事 (6) 救急業務に関する事 (7) 救助業務に関する事 (8) 救急隊の訓練に関する事 (9) 救助隊の訓練に関する事 (10) 応急手当普及啓発に関する事 (11) その他、救急及び救助に関する事 	
					機 械 ／ 通 信 指 令 担 当	<ul style="list-style-type: none"> (1) 消防機械の燃料の出納管理に関する事 (2) 機械器具の部品の出納管理に関する事 (3) 機械器具の維持管理に関する事 (4) 機械器具の操作技術の指導に関する事 (5) 救急救助資機材の維持管理に関する事 (6) 車両の安全運転管理に関する事 (7) その他機械器具に関する事 (8) 気象の測定及び気象情報に関する事 (9) 庁舎内外の通信機器の整備保全に関する事 (10) 気象及び通信統計に関する事 (11) その他、通信指令に関する事

1 面積・人口・世帯数

(平成21年4月1日現在)

面積	人口	世帯数
193.65 km ²	32,347 人	12,611 世帯

2 市予算と消防予算 (平成21年度当初)

(単位：千円)

市予算	消防費	比率
11,988,000	549,854	4.5 %

3 人口及び1世帯当りの消防費 (平成21年度当初)

消防費 (千円)	一世帯当り (円)	一人当り (円)
549,854	43,601	16,999

4 消防職員及び消防団員1人当りの人口・世帯

(平成21年4月1日現在)

消防職員 (59 人)		消防団員 (318 人)	
人口	世帯数	人口	世帯数
548.3 人	213.7 世帯	101.7 人	39.7 世帯

※消防職員にその他の職員は含まず

5 消防庁舎の現況

署所別	住 所	建 物	構 造	面 積
消防本部 高萩消防署	高萩市東本町 3-11	庁 舎	鉄筋コンクリート造 2階建	1,261.23 m ²
		訓 練 塔	鉄骨造2棟 高さ17m及び7m	144.00 m ²
		高圧ガス充填所	鉄筋コンクリート造	10.25 m ²
		車 庫	鉄筋スレート造	66.80 m ²

6 消防現勢

(平成22年3月31日現在)

職員数	本部・署	消防ポンプ機械等の種別	排気量別	台 数
59名	1本部 1署	水 槽 付 ポ ン プ 自 動 車	7,960cc	2
		水 槽 付 ポ ン プ 自 動 車	7,540cc	1
		屈折はしご付消防自動車	7,410cc	1
		救 助 工 作 車	8,200cc	1
		高 規 格 救 急 車	2,693cc	1
		高 規 格 救 急 車	3,490cc	1
		高 規 格 救 急 車	3,370cc	1
		指 令 車	2,000cc	1
		予 防 査 察 車	2,660cc	1
		広 報 車	1,760cc	1
		連 絡 車	660cc1,290cc	2
		マ イ ク ロ バ ス	4,160cc	1

※職員数にその他の職員は含まず

7 消防職員関係

(1) 職員の配置状況

(平成22年 3月31日現)

階 級 本部・課・署		消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	その他	計	
		本部	消防長	1						
	消防次長		1						1	
消防総務課	課長		1						1	
	消防総務G	課長補佐Gr. L		1					1	
		課長補佐		1					1	
		係長			1			1	2	
		主任			1			1	2	
	研修等			1				1		
予防課	課長		1						1	
	予防G	課長補佐Gr. L		1					1	
		課長補佐		1					1	
		主任			1				1	
警防課	課長		1						1	
	警防G	課長補佐Gr. L		1					1	
小計		1	9	4				2	16	
高萩消防署	署長		1						1	
	甲部中隊G	次席兼中隊長 甲部中隊Gr. L		1						1
		主査		3						3
		係長			3					3
		主任			3					3
		係員			4	2	2	4		12
	乙部中隊G	次席兼中隊長 乙部中隊Gr. L		1						1
		主査		3						3
		係長			3					3
		主任			3					3
係員				4	2	1	5		12	
小計			9	20	4	3	9		45	
合計		1	18	24	4	3	9	2	61	

在)

※「G」…グループ、「G. L」…グループリーダー

(2) 職員数の定員及び実員数
在)

(平成 22 年 3 月 31 日現

階 級 区分	消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	小 計	その他 の職員	合 計
定 員	階 級 別 な し								61
実 員	1	18	24	4	3	9	59	2	61

(3) 消防吏員の階級及び年齢調
在)

(平成 22 年 3 月 31 日現

年令 階級	20 歳 以下	21~ 25	26~ 30	31~ 35	36~ 40	41~ 45	46~ 50	51~ 55	56~ 60	計
消防司令長									1	1
消 防 司 令							6	11	1	18
消防司令補				11	11	2				24
消 防 士 長			2	2						4
消防副士長			3							3
消 防 士		7	2							9
計		7	7	13	11	2	6	11	2	59
構成比(%)		11.9	11.9	22.0	18.6	3.4	10.2	18.6	3.4	100

(4) 消防吏員の勤続年数調
在)

(平成 22 年 3 月 31 日現

計	5 年未満	5 年以上 10 年未満	10 年以上 15 年未満	15 年以上 20 年未満	20 年以上 25 年未満	25 年以上 30 年未満	30 年以上
59	10	5	7	14	3	2	18

(5) 職員技能資格取得調

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

資 格		階 級		消 防 司令長	消 防 司 令	消 防 司令補	消 防 士 長	消 防 副士長	消防士	計	
		普通	大型								
運 転 免 許	普通			1	18	24	4	3	8	58	
	大型			1	15	22	1	2	8	49	
そ の 他 資 格	特殊無線技師			1	3	24	4	3	9	44	
	小型船舶操縦士				2	12	1			15	
	危険物取扱者乙種第 1 類					1		1		2	
	危険物取扱者乙種第 2 類					1		1		2	
	危険物取扱者乙種第 3 類					2	1	1		4	
	危険物取扱者乙種第 4 類					7	6	3	3	9	28
	危険物取扱者乙種第 5 類					1		1		2	
	危険物取扱者乙種第 6 類					1		1		2	
	衛生管理者					1				1	
	潜水士					1	8	1		3	13
	アマチュア無線士					3	1				4
	二級ボイラー技士								1		1
	小型クレーン					2	17	1	1	2	23
	玉掛け					3	19	2	1	3	28
	救急救命士					3	5	1	1		10
	BLS インストラクター					1	3	1			5
	JPTEC インストラクター					1	3	2			6
	ACLS インストラクター										
	特定科学物質等					2	8		1		11
	予防技術資格者					1	1				2
アーク溶接士					2					2	
16mm 映写技士					3	2				5	
自動車整備士 3 級					1					1	

(6) 職員教育実施状況調 (平成21年度)

階 級 科 目	消 防	消 防	消 防	消 防	消 防	消防士	計
	司令長	司 令	司令補	士 長	副士長		
消防大学校							
救急救命士研修							
初任教育 初任科							
幹部教育 初級幹部科							
幹部教育 中級幹部科							
幹部教育 上級幹部科							
専科教育 特殊災害科			1				1
専科教育 火災調査科							
専科教育 予防査察科							
専科教育 危険物科							
専科教育 救助科			1				1
専科教育 警防科							
専科教育 救急科						1	1
特定化学物質作業技能取得							
特別教育 潜水講習会						1	1
特別教育 操法指導者研修会							
消防緊急車運転技能者研修			1				1
玉掛技能講習							
小型クレーン運転技能講習							
特別教育 薬剤投与講習会			2				2
特別教育 気管挿管実習							
合 計			5			2	7

8 消防相互応援協定 (平成22年 3月31日現在)

管内において拡大災害や、境界地域等に発生した災害、及び大規模かつ広域的に発生した災害による被害を最小限に防止するため、消防組織法（昭和22年法律第226号）第39条第2項の規定に基づき、各関係機関と消防相互協定を締結している。

応援協定締結団体

協定名	茨城県広域 消防相互 応援協定	高萩市・ 日立市 消防相互 応援協定	高萩市・ 北茨城市 消防相互 応援協定	高萩市・ 常陸太田市 応援協定	茨城県高速 自動車道等 における消 防相互応援 協定
区分					
協定の 対象 区域	茨城県全域	普通…境界 隣接する 区域 特別…管轄 区域全域	同 左	同 左	常磐自動車道
災害の 種 別	水火災又は 地震等の災 害で必要と するもの	火 災 救 急	同 左	同 左	火 災 救 急
応援の 種 別	相互応援	同 左	同 左	同 左	相互応援
要請の 方 法	茨城県に 報告のち 電話 その他	電話 その他	同 左	同 左	出場消防隊 (電話)
応援隊 の指揮 ・命令	発生市町村 等の長	受援側の現 場 最高指揮者	同 左	同 左	受援側の現 場 最高指揮者
経費の 負 担 区 分	経常的経費 及び事故等 に関する経 費は応援側 その他は受 援側負担	同 左	同 左	同 左	経常的経費 及び事故等 に関する経 費は応援側 その他は受 援側負担
協定の 締結日	平成7年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成20年 4月1日締結	平成19年 12月27日 締結
協定の 方 法	文 書	同 左	同 左	同 左	同 左

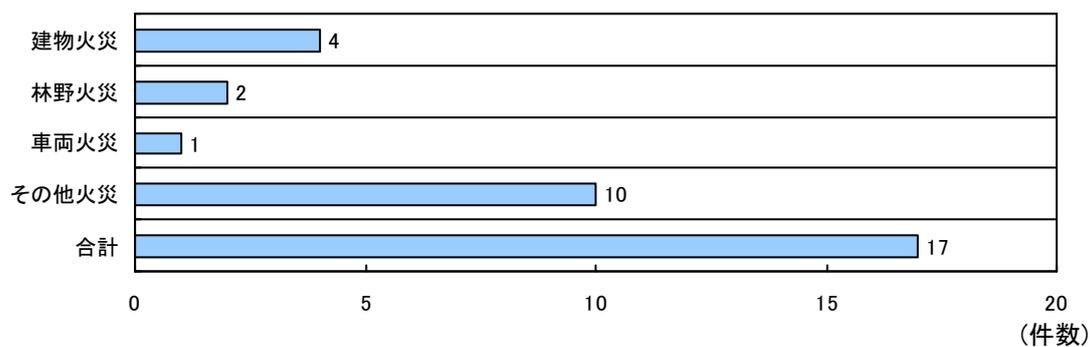
予 防

1 火災発生状況

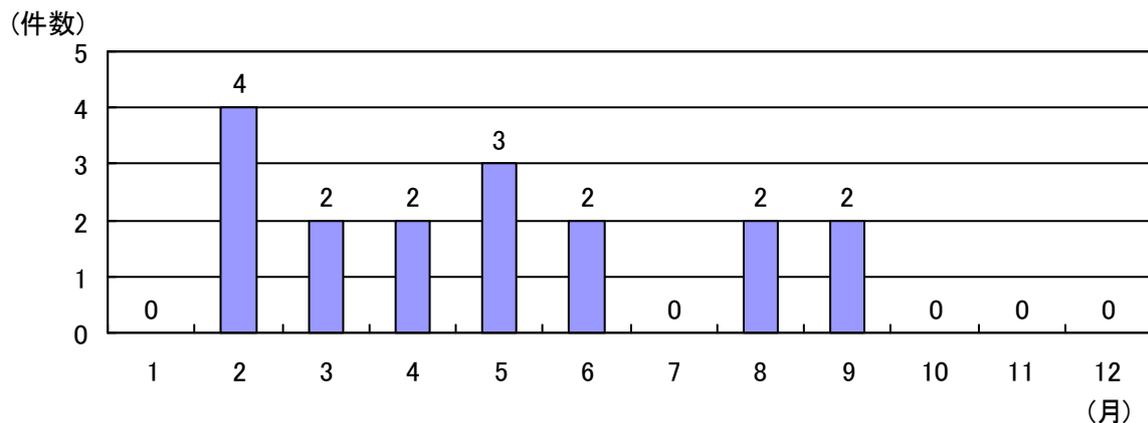
平成21年中に発生した火災は17件で、昨年より2件の減となりました。

内訳は建物火災4件、林野火災2件、車両火災1件、その他の火災10件で月平均1.4件の火災が発生したことになります。

(1) 火災件数

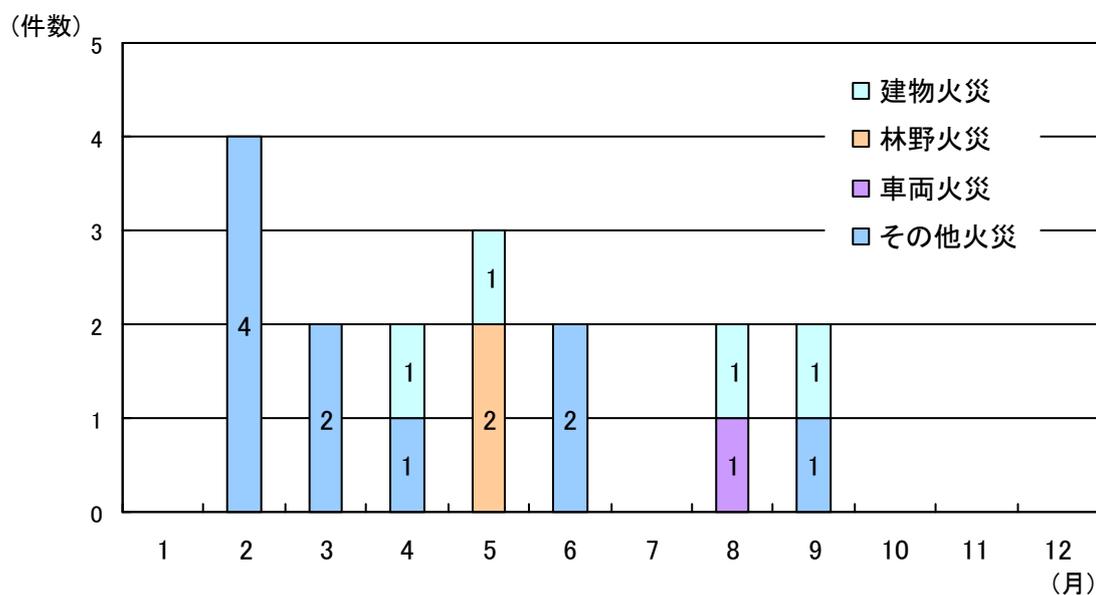


(2) 月別火災発生状況

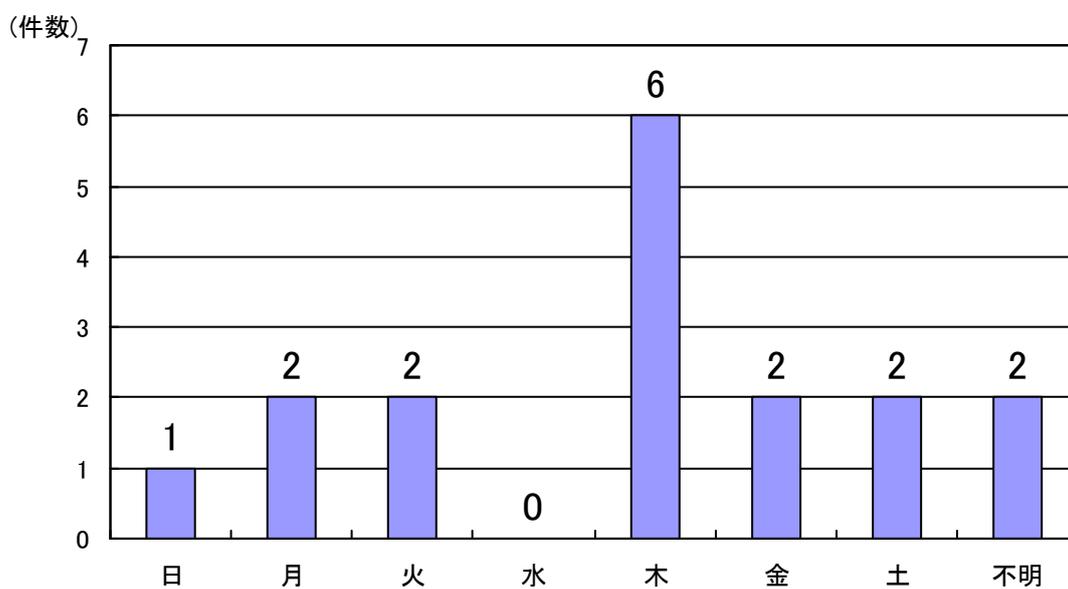


	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
建物焼損床面積(m ²)					44			11	16				71
建物焼損表面積(m ²)													
林野焼損面積(a)					6								6
車両焼損台数								1					1

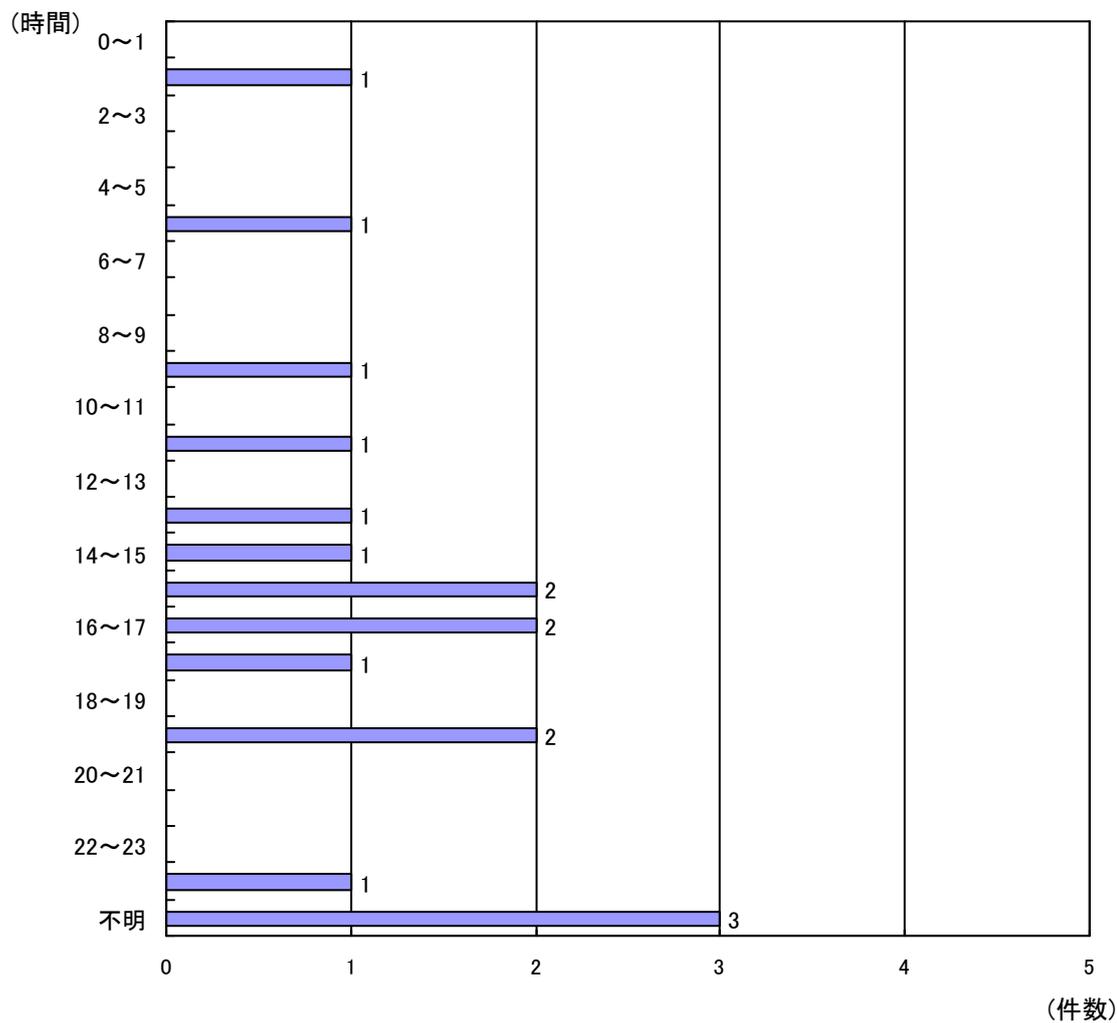
(3) 月別種別火災発生状況



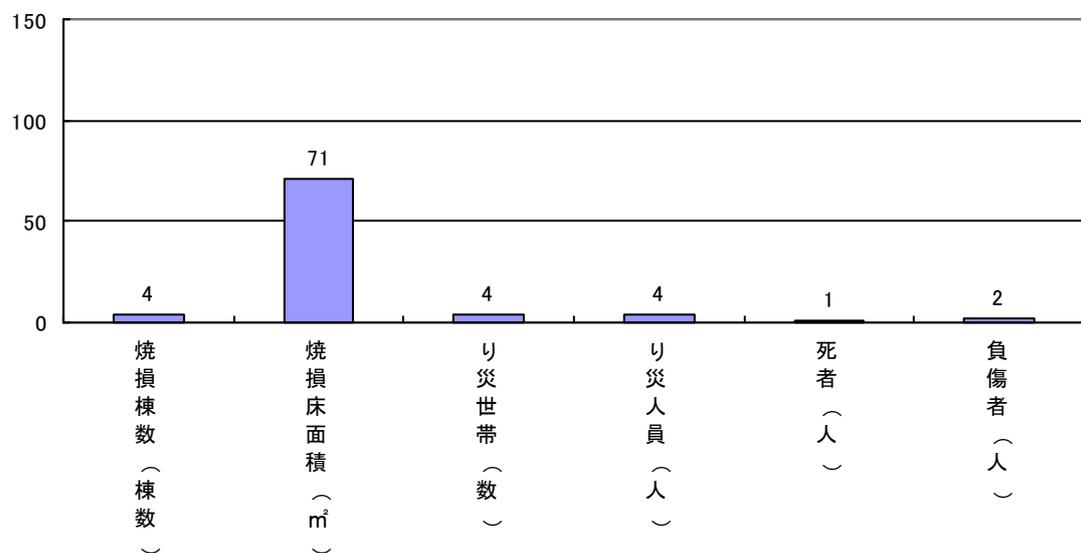
(4) 曜日別火災発生状況



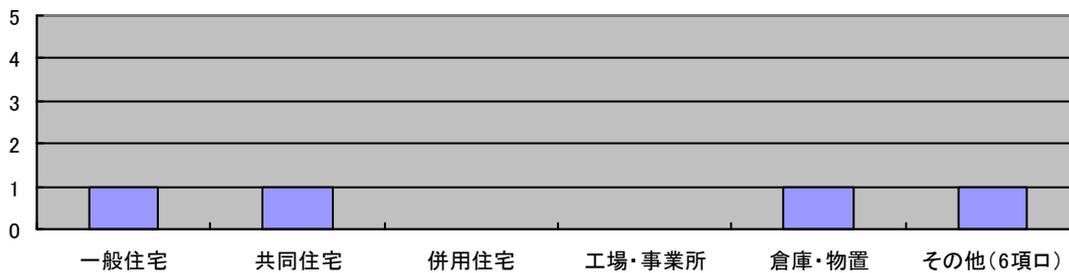
(5) 時間別火災発生状況



(6) 建物焼損床面積等

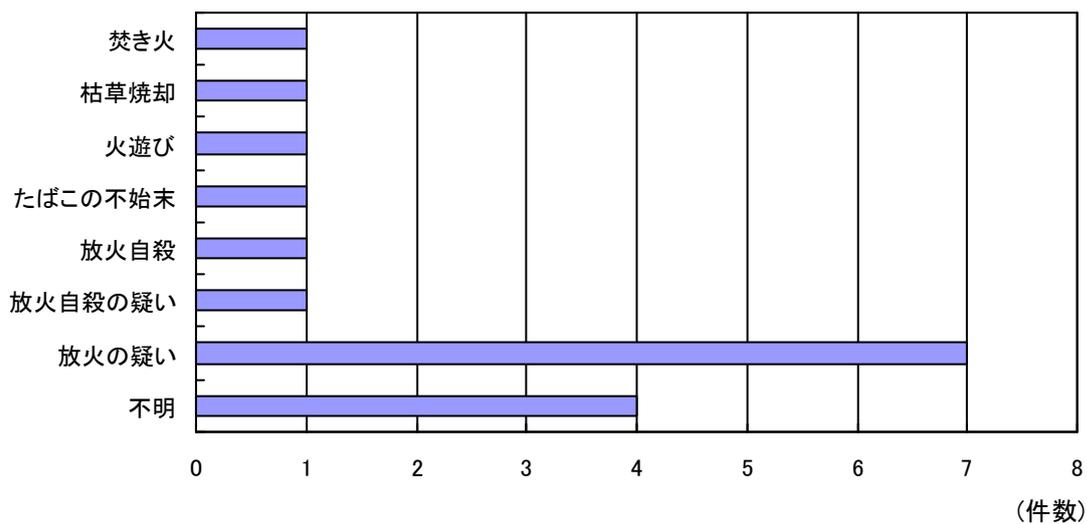


(7) 建物用途別被害状況

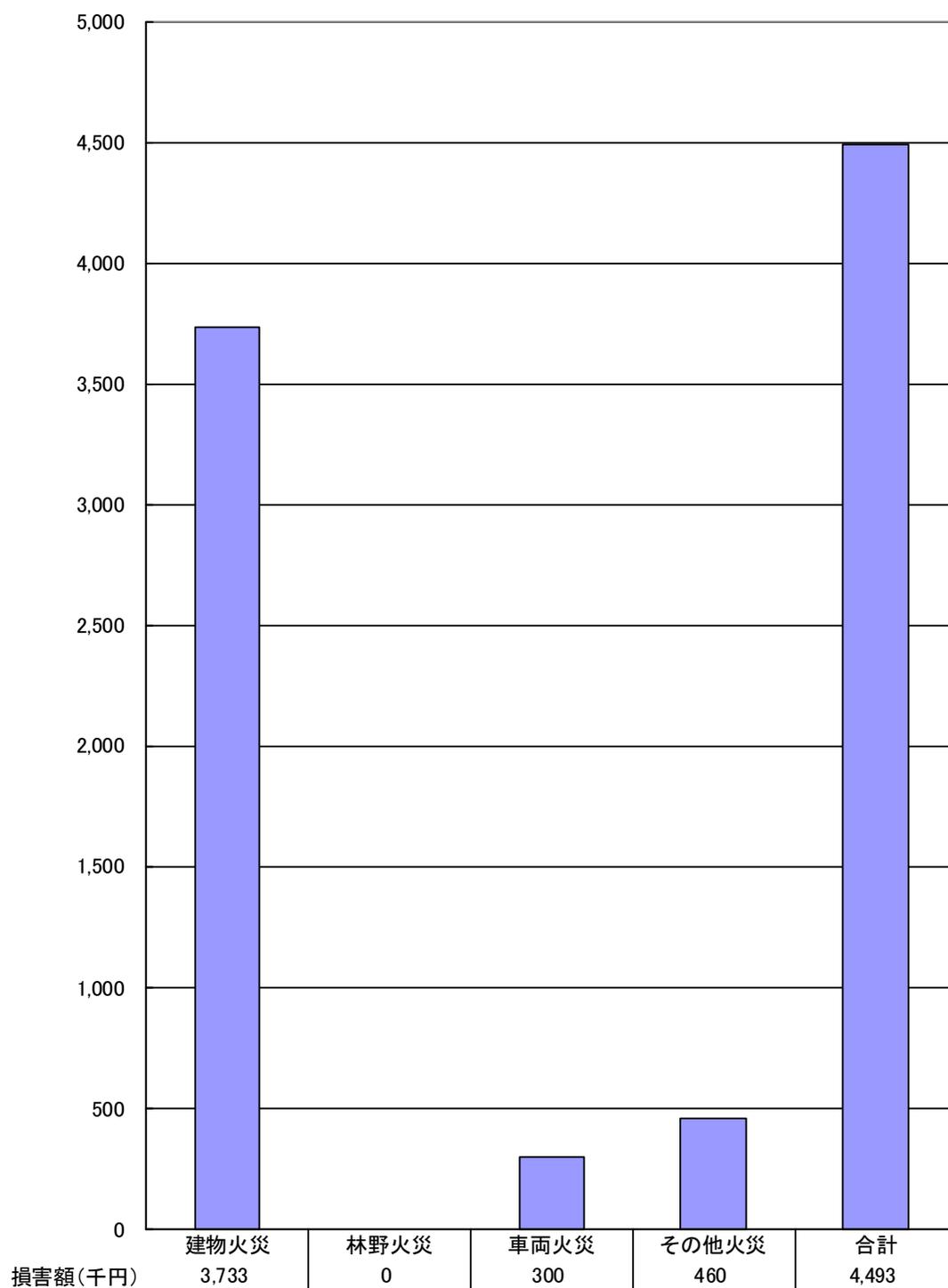


	一般住宅	共同住宅	併用住宅	事業所 工場	物倉 置庫	その他	合計
損害額 (千円)	2,620	1,060			20	33	3,733
焼損床面積 (㎡)	44	11			16	無	71
焼損表面積 (㎡)						無 (洗濯機)	

(8) 主な火災の原因

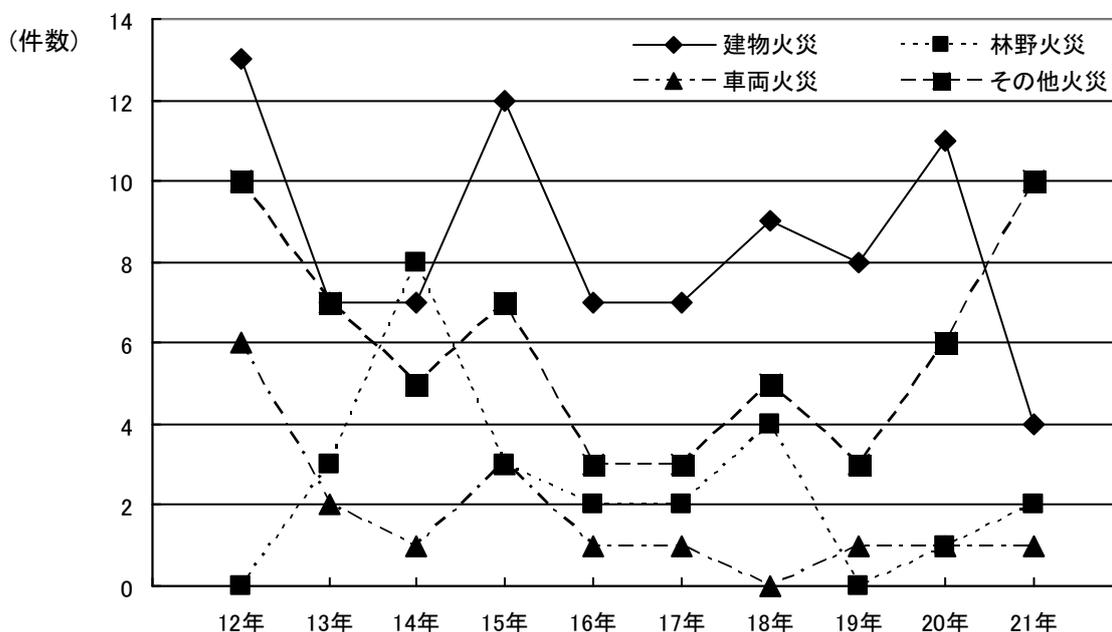


(9) 損害額



2 火災の推移（過去10年間）

(1) 出火件数



(2) 損害額

区分	年別									
	H12年	H13年	H14年	H15年	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年
火災件数	29	19	21	25	13	13	18	12	19	17
損害額 (千円)	37,029	60,907	8,316	17,818	22,395	15,895	18,677	24,726	42,000	4,493
1件当たりの損害額 (千円)	1,277	3,206	396	713	1,723	1,223	1,038	2,061	2,211	264
1人当たりの損害額 (千円)	1,076	1,764	244	524	669	472	576	772	31,689	144
1日当たりの損害額 (千円)	101	167	23	49	61	44	51	68	115	12
1世帯当たりの損害額 (千円)	3,118	5,057	688	1,485	1,865	1,270	1,587	2,089	11,879	379

3 防火対象物現況（150㎡以上）

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

用途別		棟数
(1)	イ 劇場、映画館、演芸場、又は観覧場	1
	ロ 公会堂、集会場	22
(2)	イ キャバレー、カフェ、ナイトクラブ	10
	ロ 遊技場、ダンスホール	
	ハ 性風俗関連特殊営業を営む店舗等	
	ニ カラオケボックス等	
(3)	イ 待合、料理店	4
	ロ 飲食店	17
(4)	百貨店、マーケット、店舗、展示場	53
(5)	イ 旅館、ホテル、宿泊所	13
	ロ 寄宿舎、下宿、共同住宅	223
(6)	イ 病院、診療所、助産所	17
	ロ 老人短期入所施設等	20
	ハ 老人サービスセンター、保育所等	5
	ニ 幼稚園、特別支援学校	
(7)	小学校、中学校、高等学校、高等専門学校、大学校	55
(8)	図書館、博物館、美術館	3
(9)	イ 公衆浴場のうち蒸気浴場、熱気浴場	
	ロ イに掲げる公衆浴場以外の公衆浴場	
(10)	車輛の停車場、船舶又は航空機の発着場	1
(11)	神社、寺院、教会	6
(12)	イ 工場、作業所	226
	ロ 映画スタジオ、テレビスタジオ	
(13)	イ 自動車車庫、駐車場	8
	ロ 飛行機又は回転翼航空機の格納庫	
(14)	倉庫	67
(15)	前各項に該当しない事業所	119
(16)	イ 特定防火対象物の用途が存する複合用途	38
	ロ (イ) 以外の複合用途防火対象物	13
(16の2)	地下街	
(16の3)	準地下街	
(17)	重要文化財、史跡等建造物	
(18)	延長50m以上のアーケード	
(19)	市町村長の指定する山林	
(20)	総務省令で定める舟車	
計	合 計	921

4 防火管理者選任及び4階以上の中・高層建築物現況表

(平成 22年 3月 31日現在)

用途別		防火管理者選任		4階以上の 中・高層建築物
		対 象 物	届 出 済	
(1)	イ	1	1	
	ロ	52	52	
(2)	イ			
	ロ	7	7	
	ハ			
(3)	ニ	1	1	
	イ	4	4	
(4)	ロ	12	12	
		36	23	
(5)	イ	9	9	
	ロ	12	11	66
(6)	イ	14	8	1
	ロ	11	11	2
	ハ	11	9	
	ニ	5	5	
(7)		13	13	3
(8)		1	1	
(9)	イ			
	ロ			
(10)		1	1	
(11)		5	5	
(12)	イ	26	24	6
	ロ			
(13)	イ			
	ロ			
(14)				
(15)		17	17	1
(16)	イ	14	12	7
	ロ			
(16の2)				
(16の3)				
(17)		1	1	
(18)				
(19)				
(20)				
計		253	227	87

5 建築同意月別用途別状況

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

用途別		月別												合計
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
1	イ 劇場等													
	ロ 集会場等													
2	イ キャバレー等													
	ロ 遊技場等								1					1
	ハ 性風俗関連特殊営業店舗等													
	ニ カラオケボックス等													
3	イ 料理店等									1				1
	ロ 飲食店								1					1
4	百貨店等													
5	イ 旅館等													
	ロ 共同住宅等				1									1
6	イ 病院等													
	ロ 老人短期入所施設等					1								1
	ハ 老人サービスセンター等	1												1
	ニ 特別支援学校等													
7	学校等													
8	図書館等													
9	イ 蒸気浴場等													
	ロ 一般浴場													
10	車両停車場													
11	神社等													
12	イ 工場等	1			1		1		1		1	1		6
	ロ スタジオ等													
13	イ 車庫等													
	ロ 特殊格納庫													
14	倉庫											1		1
15	全各項以外			2		1					1			4
16	イ 特定複合用途													
	ロ イ以外の複合用途													
17	重要文化財													
専用住宅					1			2	2	1	2	1	2	11
その他				1										1
合計		2		3	3	2	1	2	5	2	4	3	2	29

6 月別建築確認受理件数

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

区 分 月 別	新 築		改 築		増 築		移 転		合 計	
	件	m ²								
1	2	6,703.13							2	6,703.13
2										
3	4	762.41			1	625.83			5	1,388.24
4	3	3,904.55							3	3,904.55
5	2	508.38			1	177.62			3	686.00
6	1	255.90							1	255.90
7	2	298.54							2	298.54
8	4	3,436.59			2	993.70			6	4,430.29
9	3	466.38							3	466.38
10	3	584.24			1	1,461.07			4	2,045.31
11	1	199.76			2	122.16			3	321.92
12	1	111.94			1	259.08			2	371.02
計	26	17,231.82			8	3,639.46			34	20,871.28

危 險 物

1 危険物関係申請及び届出

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

危険物申請製造所等設置（変更）許可申請交付件数	19	危険物製造所等完成検査済証交付件数	27
タンク検査済証交付件数		危険物保安監督者選任、解任届出数	18

2 危険物規制対象調（完成検査済証交付施設）

液化石油ガス貯蔵開始届出件数	6	少量危険物タンク等検査済証交付件数	
液化石油ガス意見書交付件数		指定可燃物届出件数	1
少量危険物貯蔵取扱所届出件数	13		

3 危険物製造所等一覧表

製造所等の別	総計	製造所	貯 蔵 所								取 扱 所			
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
合計	178	9	101	29	44	5	22			1	68	20		48

4 類別・危険物製造所等一覧表

事業所			72								(平成22年3月31日現在)			
製造所等の別	総計	製造所	貯蔵所								取扱所			
			小計	屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	販売取扱所	一般取扱所
合計	178	9	101	29	44	5	22			1	68	20		48
単独	第1類													
	第2類													
	第3類													
	第4類	169	4	97	25	44	5	22		1	68	20		48
	第5類													
	第6類													
混在	8	5	3	3										

警

防

1 消防活動状況

(1) 警防活動状況 (消防署が出場及び実施したもの)

	事 項 別	回 数	出 場 人 員	
1	火 災 出 場	17	153	
	* 内 訳	火 掛	8	95
		不 掛	9	58
2	応 援	管 外	0	0
		管 内	0	0
3	怪 煙 出 場	0	0	
4	誤 報 出 場	0	0	
5	救 急 出 場	1,101	3,303	
6	救 助 出 場	160	620	
7	災 害 出 場	1	5	
8	特 別 興 業 等 の 警 戒	16	64	
9	警 戒 出 場	25	104	
10	山 林 パ ト ロ ー ル	27	170	
11	訓 (ポンプ操法、規律訓練は含まれない) 練	247	2,278	
12	事 業 所 等 の 訓 練	28	155	
13	警 防 調 査	26	86	
14	防 火 広 報	11	11	
		(22)	(47)	
15	捜 索 ・ 遭 難 (行 方 不 明 は そ の 他)	1	8	
16	事 故 処 理	9	40	
17	蜂 駆 除	271	1,083	
		(42)	(128)	
18	そ の 他 出 場	24	119	
	計	1,964	8,199	
		(64)	(175)	

()内は本部が出場 *内訳は計には含まれない

(2) 消防訓練等指導調

指 導 内 容	件数	派遣人員	参加人員
1 事業所学校等への消防避難訓練の指導及び火災予防講話派遣	46 件	257 人	5,948 人
2 婦人消防クラブ指導	1 件	2 人	10 人
3 見学者に対する広報 (職場体験含む)	9 件		338 人
4 その他 (操法訓練)	24 件	240 人	500 人

2 警防関係申請及び届出

催物開催届出件数	3	水道断水減水届出件数	2
煙火打上げ仕掛け届出件数	37	水素ガス充てんする気球の設置届出 (アドバルーン件数)	0
道路工事届出件数	52	火災とまぎらわしい煙又は火災を発生するおそれのある行為の届出件数	39

3 消防水利の現況

種 類	公私別		公設	私設	合 計
	区 分				
消 火 栓	双 口				
	単 口		469		469
	計		469		469
貯 水 槽	40 m ³ 以上		49	24	73
	20 m ³ 以上 40 m ³ 未満		5		5
	計		54	24	78

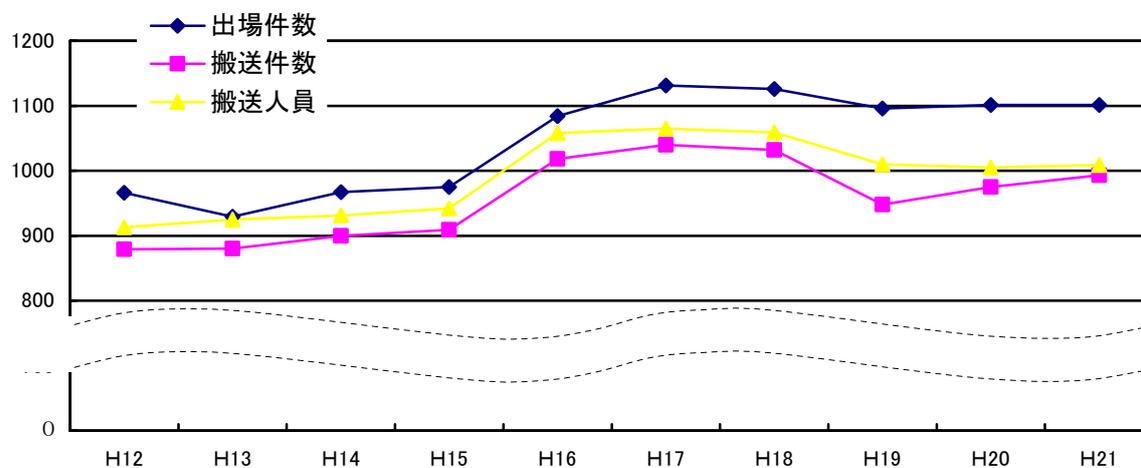
救 急 救 助

1 救急取扱件数

区 分		出場件数	搬送件数	搬送人員	不搬送
救急 出場 種別	火災				
	自然災害				
	水難事故				
	交通事故	119	110	126	9
	労働災害	8	8	8	
	運動競技	4	4	4	
	一般負傷	158	145	145	13
	加害	6	5	5	1
	自損行為	15	12	12	3
	急病	726	644	644	82
	その他	転院搬送	64	64	64
医師搬送					
資機材搬送					
その他		1	1	1	
合 計		1,101	993	1,009	108

2 過去 10 年の推移

年	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
出場件数	966	929	967	975	1,084	1,131	1,126	1,096	1,101	1,101
搬送件数	879	880	900	909	1,018	1,040	1,032	984	975	993
搬送人員	913	925	931	942	1,058	1,065	1,059	1,010	1,005	1,009



3 年齢区分別搬送人員状況

新生児	10人	0.1%
乳幼児	42人	4.2%
少年	45人	4.5%
成人	416人	42.1%
老人	496人	49.1%

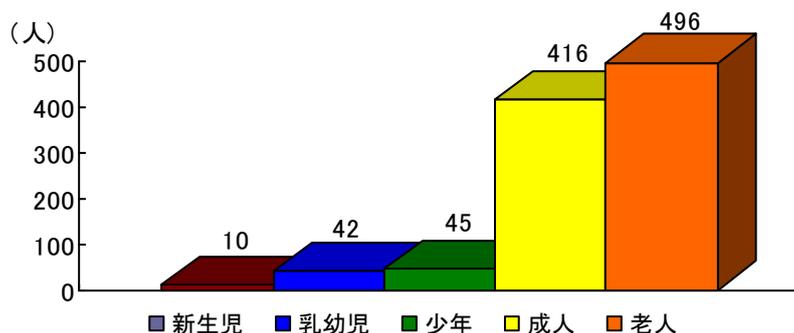
※新生児…生後29日以内

乳幼児…29日～7歳未満

少年…7歳～18歳未満

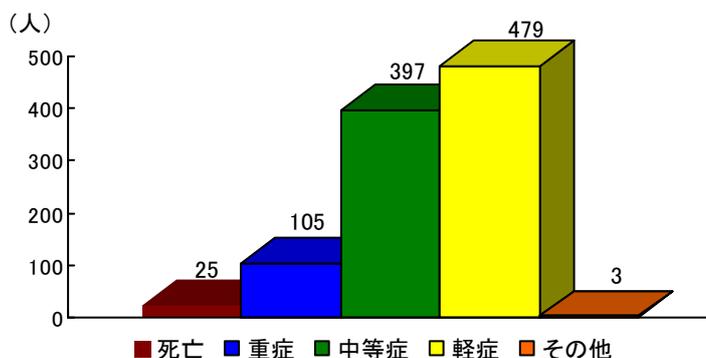
成人…18歳～65歳未満

老人…65歳以上



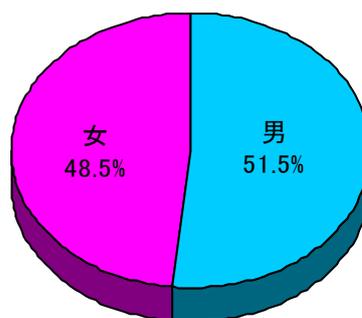
4 傷病程度別搬送人員状況

死亡	25人	2.4%
重症	105人	10.4%
中等症	397人	39.4%
軽症	479人	47.5%
その他	3人	0.3%



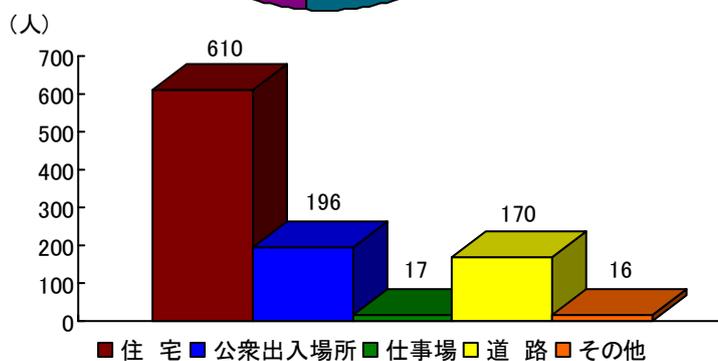
5 男女別搬送人員状況

男	520人	51.5%
女	489人	48.5%



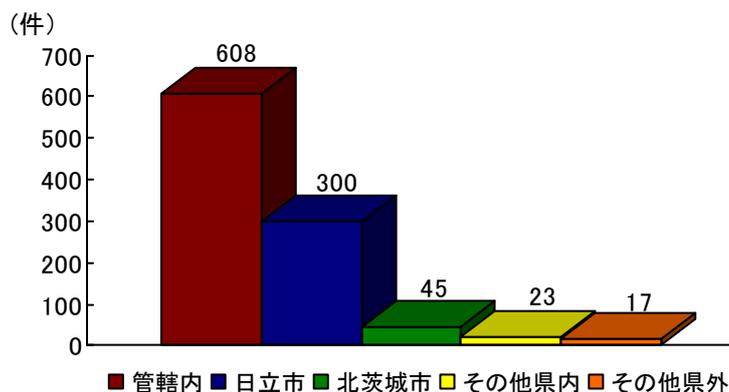
6 発生場所別搬送人員状況

住宅	610人	60.5%
公衆出入場所	196人	19.4%
仕事場	17人	1.7%
道路	170人	16.8%
その他	16人	1.6%



7 管轄内・管轄外搬送件数状況

管 轄 内	608 件	61.2%
日 立 市	300 件	30.2%
北 茨 城 市	45 件	4.6%
その他県内	23 件	2.3%
その他県外	17 件	1.7%



8 応急手当講習会実施状況

		実施回数	受講者
普通救命講習会	平成 20 年まで	374 回	7,885 人
	平成 21 年中	26 回	557 人
その他講習会	平成 20 年まで	68 回	2,370 人
	平成 21 年中	1 回	21 人

9 救助出場件数状況

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	よる事故 機 械 に	よる事故 建 物 等 に	酸欠事故	ガス及び	爆発事故	その他	P A 連 携	計
出場件数		33								3	109	145
活動件数		19								1	81	101
救助人員		24								1	81	106

機 械

1 消防ポンプ機械の現況

高萩消防署

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

消防車両				ポンプ		備考
種別	登録番号	車別・年式	性能	型式	級別	
水槽付ポンプ自動車	水戸 800 は 82	日野 2000 年	KK-GD1JGDA 改 J08C 7,960 cc 水1,500ℓ I-B型 定員6 消防無線 ホースカー積載 ディーゼルエンジン 照明装置150W×4 リアビューモニター	日本機械 二段バランスタービン	A-1	無給脂型
水槽付ポンプ自動車	水戸 88 さ 2535	日野 1997 年	KC-GD1JGBA 改 J08C 7,960 cc 水2,000ℓ II型(中型) 定員6名 消防無線 エンジン付ホースカー積載 ディーゼルエンジン 照明装置1KW×2	日本機械 二段バランスタービン	A-1	無給脂型
水槽付ポンプ自動車	水戸 88 す 6902	三菱 1991 年	U-FK417FW 改 6D16 7,540 cc 水1,500ℓ I-B型(中型) 定員7名 消防無線 ホースカー積載 ディーゼルエンジン 照明装置1KW×2	日本機械 二段バランスタービン	A-1	
屈折はしご付消防自動車	水戸 88 さ 2227	日野 1995 年	U-FF3HKAA 改 H07D 7,410 cc 定員5名 消防無線 YO送気装置 ディーゼルエンジン Σ型20m級 リモコンサーチライト500W			
救助工作車	水戸 800 は 322	三菱 2003 年	KK-FK61HGX 改 6M61 II型 8,200 cc 定員6名 消防無線 ウインチ・クレーン装置 超高圧噴霧装置 発電機 照明装置1KW×2 ディーゼルエンジン リアビューモニター			
高規格救急車	水戸 88 に 6621	トヨタ 1998 年	GB-VCH38S 5VZ 3,370 cc 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 オートマチック ガソリンエンジンフルタイム4WD バックモニター			
高規格救急車	水戸 800 す 2073	日産 2005 年	TC-FPWGE50 改 VQ35 3,490 cc 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 オートマチック ガソリンエンジンオールモード4WD バックモニター付ナビゲーションシステム			
高規格救急車	水戸 800 す 6810	トヨタ 2009 年	CBF-TRH226S 2TR 2,693 cc 定員7名 消防庁認定高規格 消防無線 オートマチック ガソリンエンジンフルタイム4WD DVDナビゲーションシステム&バックガイドモニター			(社)日本損害 保険協会寄贈
指令車	水戸 88 せ 5501	トヨタ 1996 年	GA-GS136V 1G 1,980 cc 定員5名 消防無線 市防災無線 広報装置 オートマチック ガソリンエンジン			
予防査察車	水戸 88 に 5226	日産 1997 年	KD-KRGE24 TD27 2,660 cc 定員10名 消防無線 広報装置 オートマチック ディーゼルエンジン リモコンサーチライト2基			
広報車	水戸 500 と 6569	日産 2001 年	GF-WHNY11 QG18 1,760 cc 定員5名 広報装置 オートマチック ガソリンエンジン			日本消防 協会寄贈
連絡車 1号	水戸 41 か 9299	三菱 2001 年	GD-U62V 3G83 650 cc 定員4名 オートマチック ガソリンエンジン			
連絡車 2号	水戸 45 せ 22	日産 1997 年	R-VY10 GA13 1,290 cc 定員5名 オートマチック ガソリンエンジン			
マイクロバス	水戸 200 さ 262	日産 2001 年	KK-BVW41 TD42 4,160 cc 定員26名 オートマチック ディーゼルエンジン			日本ケミコン (株)寄贈

2 特殊器具の状況（警防・救急救助器具）

（平成 22 年 3 月 31 日現在）

		数量
救急器具	人工呼吸器	3
	携行型蘇生器（大人・小児・乳児）	各 3
	自動式吸引器	3
	スクープストレッチャー	3
	陰圧式固定器具	3
	喉頭鏡セット	3
	心電図伝送装置	2
	呼気二酸化炭素検知器	1
	携帯用人工呼吸器	1
	自動体外式除細動器（AED）	5
	輸液ポンプ	2
	自動心肺蘇生器	1
	ショックパンツ	1
	バックボード	5
警防・救助器具	かぎ付きはしご	3
	三連はしご	3
	ワイヤーはしご	1
	空気式救助マット	1
	救命索発射銃	1
	サーバイバースリング	1
	救助用縛帯	2
	平担架	1
重量物排除用器具	ポートパワー	1
	マット型空気ジャッキ	1
	大型油圧スプレッター	1
	テレスコピックラム	1
	可搬ウインチ	3
切断機	エンジンカッター	3
	チェーンソー	3
	空気鋸	1
	油圧切断機（スーパーカッター）	1
	大型油圧切断機（ホルマトロカッター）	1
破壊用器具	携帯用コンクリート破壊器具（ストライカー）	2
	ハンマードリル	1
測定用器具	有毒ガス、酸素濃度、可燃性ガス測定器（GX-111）	1
	一酸化炭素測定器	1
	放射能測定器	1
	音響発光式検電器	2
呼吸保護用器具	簡易呼吸器	1
	送排風機	3
	エアラインマスク	1
	空気呼吸器	21

隊員用保護具	耐電衣	2
	耐電ズボン	2
	耐電手袋	10 双
	耐電長靴	3 足
	陽圧式化学防護衣（レベルA対応）	2
	化学防護衣（レベルB・C対応）	25
	携帯警報機	5
	放射線線量計（個人用）	5
検索用器具	簡易画像探査機（プロアイ）	1
水難救助用資機材	潜水器具一式	4
	水中投光器	4
	浮標	1
	救難用ボート	1
	船外機	1
	救命浮環	2
	救命胴衣	12
その他の救助器具 (山岳救助用器具含む)	バスケットストレッチャー	1
	ロープ登はん器（ユマール）	4
	降下器（エイト環）	2
	ガラスカッター	1
	セーフティエアバック	1
	ロープガイド	2
	救助ロープ保護板・保護カバー	7
	ベルトスリング	10
	スタティックロープ（100m）	4
その他の器具	ガス滅菌器	1
	高圧コンプレッサー	1
	高発泡装置	2
	耐熱服	5

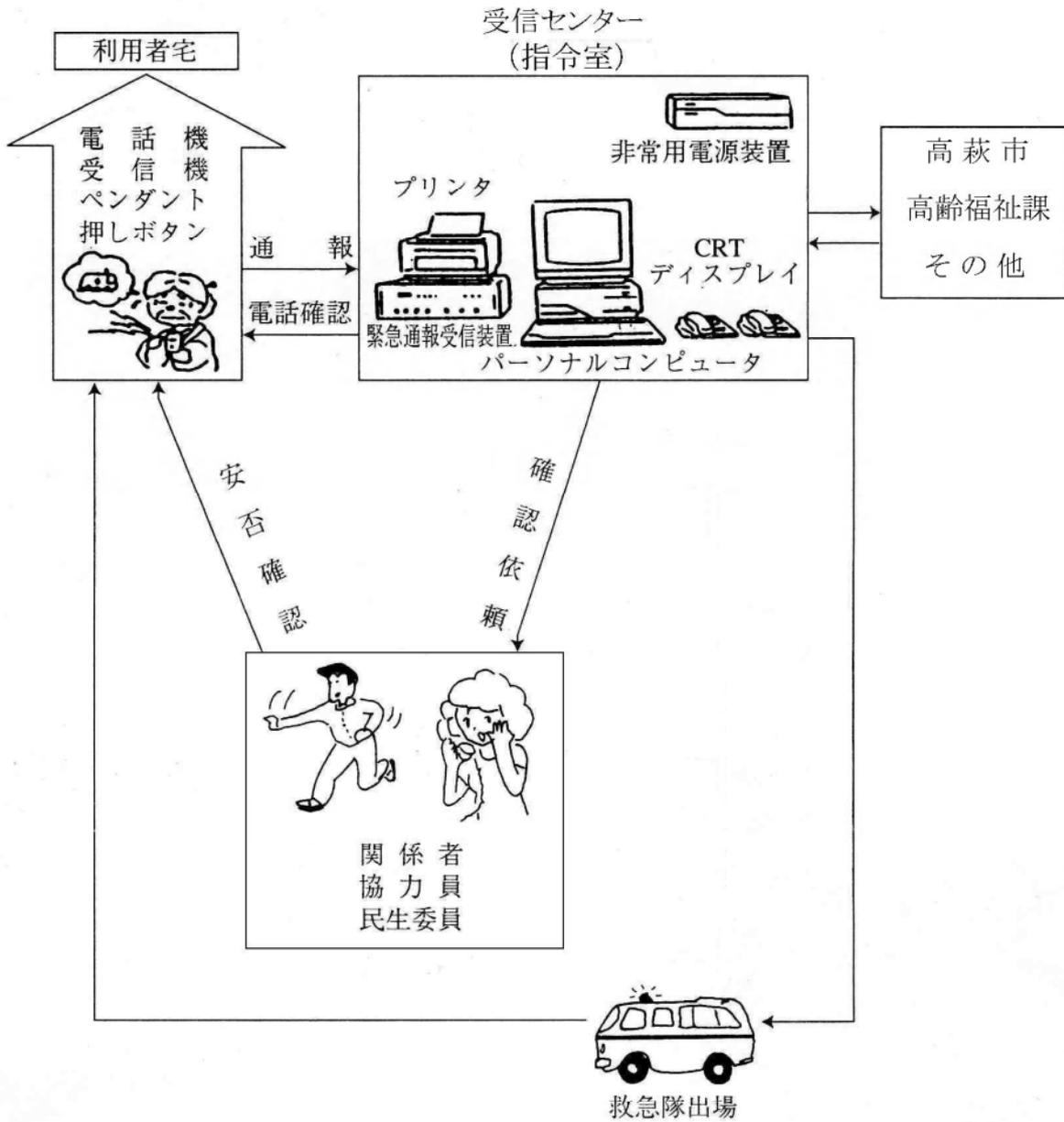
通 信

1 消防無線局施設調べ

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

種別 局名	呼出名称	周波数	空中線 電力 (W)	電波の 形 式	空中線	設置年月	形 式	設置場所
基地局	しょうぼう たかはぎ	5 波	10	F3E	3 素子 ハネ	1999/ 3/24 1999/ 3/24 1993/12/20	CM-5556Z 現予 CM-5555Z 現予 EMM-10HF/AVDT	消防本部
陸 上 移 動 局	たかはぎ 1	3 波	10	F3E	ホイップ	1995/12/26	EMM-10HF/AVDT	指 令 車
	たかはぎ 2	5 波	10	F3E	ホイップ	1996/ 1/31	EMM-10HF/AVDT	高規格救急車
	たかはぎ 3	5 波	10	F3E	ホイップ	2000/ 3/29	CM-5066MT	水槽付ポンプ車
	たかはぎ 4	3 波	10	F3E	ホイップ	1993/ 8/25	EMM-10HF/AVDT	水槽付ポンプ車
	たかはぎ 5	5 波	10	F3E	ホイップ	1997/ 3/20	EMM-10HF/AVDT	水槽付ポンプ車
	たかはぎ 6	5 波	10	F3E	ホイップ	2009/ 4/ 1	EMM-10MR/AVWT	高規格救急車
	たかはぎ 7	5 波	10	F3E	ホイップ	1996/ 6/ 1	EMM-10HF/AVDT	査 察 車
	たかはぎ 8	3 波	10	F3E	ホイップ	1995/ 2/10	EMM-10HF/AVDT	屈折はしご車
	たかはぎ 9	5 波	10	F3E	ホイップ	2003/ 2/20	EMM-10MR/AVDT	救助工作車
	たかはぎ 10	5 波	10	F3E	ホイップ	2009/10/14	EMM-10MR/AVWTS	高規格救急車
	たかはぎ 101	3 波	1	F3E	ホイップ	1993/ 3/19	EMM-01QT/WT	携 帯
	たかはぎ 102	3 波	1	F3E	ホイップ	1993/ 3/19	EMM-01QT/WT	携 帯
	たかはぎ 103	3 波	1	F3E	ホイップ	1993/ 3/19	EMM-01QT/WT	携 帯
	たかはぎ 104	5 波	1	F3E	ホイップ	1997/ 7/ 8	CP-5162T	携 帯
	たかはぎ 105	5 波	1	F3E	ホイップ	1997/ 3/20	CP-5162T	携 帯
	たかはぎ 106	5 波	1	F3E	ホイップ	1991/ 8/16	CP-5067T	携 帯
	たかはぎ 107	5 波	1	F3E	ホイップ	1991/ 8/16	CP-5162T	携 帯
	たかはぎ 108	5 波	1	F3E	ホイップ	1991/ 8/16	CP-5162T	携 帯
	たかはぎ 109	3 波	10	F3E	ホイップ	1994/10/17	EMM-10PA/VT	携 帯
たかはぎ 110	3 波	1	F3E	ホイップ	1995/1/18	EMM-01QT/WT	携 帯	
たかはぎ 111	3 波	1	F3E	ホイップ	1995/1/18	EMM-01QT/WT	携 帯	
たかはぎ 112	3 波	1	F3E	ホイップ	1995/1/18	EMM-01QT/WT	携 帯	
たかはぎ 113	5 波	1	F3E	ホイップ	1999/ 3/26	CP-5067T	携 帯	
たかはぎ 114	5 波	5	F3E	ホイップ	2000/ 3/29	CP-5067T	携 帯	
たかはぎ 115	5 波	5	F3E	ホイップ	2007/ 9/ 3	EMM-05FT/WT	携 帯	
たかはぎ 116	5 波	5	F3E	ホイップ	2007/ 9/ 3	EMM-05FT/WT	携 帯	
たかはぎ 117	3 波	1	F3E	ホイップ	1995/ 6/23	EMM-01QT/WT	携 帯	
たかはぎ 118	3 波	1	F3E	ホイップ	1995/ 6/23	EMM-01QT/WT	携 帯	
たかはぎ 119	5 波	10	F3E	ホイップ	2009/ 4/ 1	EMM-10PA/VT	携 帯	

2 緊急通報システム系統図



氣 象

1 月別気温・湿度・風向・風速・雨量（5年間）調

種別 月別	気温（℃）			湿度（％）			風速（m/s）			
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	瞬間最大		平均	
							風向	風速	風向	風速
1	15.0	-0.4	4.2	97.6	22.7	69.8	北西	20.9	北北西	2.1
2	21.7	-4.3	4.7	97.6	24.5	67.9	北西	20.5	北北西	2.3
3	19.2	-1.8	6.7	97.5	23.5	66.1	西北西	17.6	北北西	2.4
4	22.6	0.4	12.2	97.3	23.0	72.9	北西	19.3	北北西	2.4
5	25.7	6.9	16.3	96.7	22.8	81.5	西北西	15.9	南南東	2.0
6	32.6	10.2	18.3	96.5	33.0	89.2	南	11.5	南	1.5
7	34.4	16.3	22.1	96.2	43.9	86.1	南西	12.4	南南東	1.7
8	28.7	16.6	22.5	93.7	46.1	86.0	北	13.3	北東	1.6
9	27.9	12.6	19.6	93.8	33.4	80.8	北東	12.9	北北西	1.8
10	24.1	8.6	15.9	93.9	33.7	78.0	北北東	18.5	北北西	1.9
11	23.2	1.2	10.9	94.3	37.2	78.9	北北西	12.9	北北西	1.8
12	15.6	-3.6	6.6	94.9	26.4	67.7	西北西	16.6	北北西	2.0
年間	24.2	5.2	13.3	95.8	30.9	77.0	北西	16.0	北北西	2.0

	年別降水量（mm）				
	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
1 月	74.5	52.0	73.5	18.0	113.5
2 月	35.5	93.0	38.5	53.0	59.5
3 月	92.5	91.5	74.0	88.5	121.5
4 月	56.0	85.5	83.5	264.5	220.0
5 月	88.0	199.0	173.5	203.0	50.0
6 月	54.5	294.0	134.0	107.5	138.0
7 月	297.0	370.5	435.0	63.5	100.5
8 月	167.0	38.0	134.5	149.0	156.5
9 月	54.5	195.5	222.0	108.5	10.5
10 月	134.0	334.0	180.5	171.5	303.0
11 月	40.5	109.5	43.5	68.0	176.0
12 月	24.0	157.0	63.0	46.0	96.5
計	1,118.0	2,019.5	1,655.5	1,341.0	1,545.5

2 月別警報調

警報種別		月別												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
1	波 浪	1	1	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	4
2	大 雨 洪 水	—	—	—	—	—	—	—	2	—	1	—	—	3
3	暴 風 波 浪	—	1	1	—	—	—	—	1	—	2	—	—	5
計		1	2	2	—	—	—	—	3	—	4	—	—	12

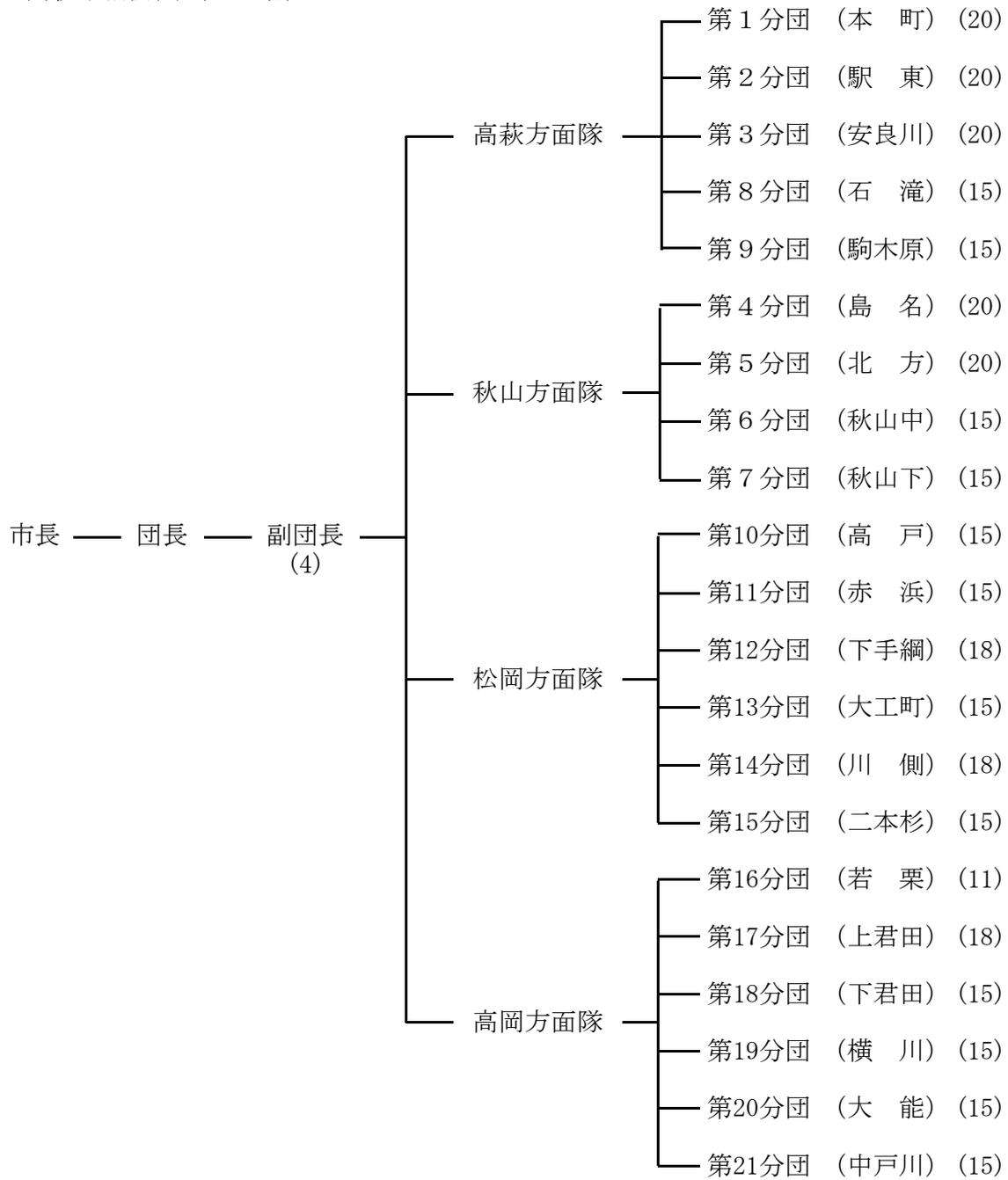
3 月別天候調

天候種別		月別												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
晴		14	7	4	3	3	1	—	3	2	5	2	7	51
晴くもり		1	6	5	5	5	4	6	2	3	7	5	5	54
晴くもり雨		2	—	1	2	2	—	1	2	—	1	2	1	14
晴くもり晴		5	3	6	4	3	1	—	3	4	5	3	5	42
くもり		—	—	1	2	5	5	—	2	1	2	—	2	20
くもり晴		1	4	2	4	3	1	4	5	9	2	5	6	46
くもり雨		2	—	2	2	1	1	3	3	—	2	1	1	18
くもり晴くもり		2	4	4	2	3	7	5	8	7	2	4	1	49
くもり雨くもり		1	2	3	1	3	5	6	1	4	2	—	1	29
雨		—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
雨くもり		1	—	—	—	2	4	2	1	—	—	2	—	12
雨のち晴		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
雨くもり雨		1	—	—	1	1	1	1	—	—	2	1	—	8
雨くもり晴		1	1	1	3	—	—	3	1	—	1	5	2	18
くもり雪		—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
くもり雨雪		—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
計		31	28	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	365

消 防 団

1 消防団の組織機構図

高萩市消防団（350名）



2 消防団現勢

(平成22年3月31日現在)

団名	分団数	車両数
高萩市消防団	21個分団	消防ポンプ自動車 7台 小型動力ポンプ積載車 14台

3 消防団員の定員数と実員数

(平成22年3月31日現在)

区分	階級							計
	団長	副団長	分団長	副分団長	班長	団員		
定員数	1	4	21	21	91	212	350	
実員数	1	4	21	21	91	194	332	

4 消防団員の勤続年数

(平成22年3月31日現在)

5年未満	5年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上	計
62	58	60	67	41	35	9	332

5 消防団員の年齢

(平成22年3月31日現在)

20才未満	20才以上 25才未満	25才以上 30才未満	30才以上 35才未満	35才以上 40才未満	40才以上 45才未満	45才以上 50才未満	50才以上 55才未満	55才以上	年齢合計	平均年齢
—	2	30	37	69	63	48	50	33	14,061	42.3

6 消防団出場回数調

(平成22年 3月31日現在)

分団		火 災	風水害	訓練等	広 報	警 防	特別警戒	捜 索	その他	計
1	出場回数	1		2	3	5	1			12
	出場人員	11		22	18	10	13			74
2	出場回数	1		2	4	6	1			14
	出場人員	17		22	31	12	15			97
3	出場回数	1	1	2	3	6	2			15
	出場人員	16	14	30	23	12	29			124
4	出場回数		1	2	2	7	1			13
	出場人員		4	24	9	26	14			77
5	出場回数	1		2	2	5	1	1		12
	出場人員	16		33	22	16	15	5		107
6	出場回数	1		2	3	4	1			11
	出場人員	6		20	13	8	8			55
7	出場回数	1		2	3	6	2			14
	出場人員	4		20	15	12	25			76
8	出場回数	1		2	2	6	1			12
	出場人員	7		16	8	12	8			51
9	出場回数			2	2	5				9
	出場人員			17	12	10				39
10	出場回数	1		2	3	6	1			13
	出場人員	7		22	15	12	13			69
11	出場回数			2	3	6	2			13
	出場人員			17	14	12	14			57
12	出場回数			2	1	4	1			8
	出場人員			32	5	8	12			57
13	出場回数			2	2	6				10
	出場人員			17	17	12				46
14	出場回数			2	3	6	1			12
	出場人員			24	22	12	12			70
15	出場回数			2	3	6	1			12
	出場人員			28	19	12	15			74
16	出場回数			2	4	5				11
	出場人員			16	16	10				42
17	出場回数			3	2	3				8
	出場人員			38	28	8				74
18	出場回数			2	2	5				9
	出場人員			18	13	10				41
19	出場回数			2	2	6				10
	出場人員			13	18	12				43
20	出場回数			2	2	6				10
	出場人員			21	18	12				51
21	出場回数			2	1	6				9
	出場人員			20	11	12				43
	計	84	18	470	347	250	193	5	0	1,367

風水害等…災害が発生し出動したもの
 訓練等…出初式、操法大会、規律訓練、防災訓練など
 広報…パレード、かまど検査、火災予防運動など
 警防調査…点検、現場検証など
 特別警戒…風水害、花火、運動競技、鳥追いなど
 その他…本部待機、施設監査など

7. 消防団ポンプ機械の現況
高萩市消防団

(平成22年 3月 31日現在)

所属	種別	消 防 車		性 能	ポ ン プ		購入年月日	備 考	
		登録番号	車種・年式		型式	級別			
第1分団 (本町)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 6156	いすゞ 2008年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H20. 12	無給脂型
第2分団 (駅東)	消防ポンプ自動車	水戸800 さ 5451	三 菱 2001年	KK-FE53EB改 5,240cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 高圧リール付 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	B-1	H13. 3	無給脂型
第3分団 (安良川)	消防ポンプ自動車	水戸800 さ 2556	日 野 2000年	KK-XZU301E 4,890cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 高圧リール付 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	B-1	H12. 3	無給脂型
第4分団 (島名)	消防ポンプ自動車	水戸88 す 4338	いすゞ 2007年	PB-NKR81N 4,770cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H19. 1	無給脂型
第5分団 (北方)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 5516	いすゞ 2008年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H20. 3	無給脂型
第6分団 (秋山中)	小型動力ポンプ積載車	水戸800 さ 2084	日 産 2000年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名	ガソリンエンジン	トーハツ V58ASR	B-3	H12. 2	無給脂型
第7分団 (秋山下)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 9014	日 産 1999年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名	ガソリンエンジン	トーハツ V58ASR	B-3	H11. 3	無給脂型
第8分団 (石滝)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 4674	日 産 1997年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H9. 3	
第9分団 (駒木原)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 9675	日 産 1994年	T-SJ2F23改 1,620cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H6. 3	
第10分団 (高戸)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 2683	日 産 1996年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H8. 3	
第11分団 (赤浜)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 869	日 産 1995年	T-SJ2F23改 1,620cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H7. 3	
第12分団 (下手綱)	消防ポンプ自動車	水戸800 す 6696	いすゞ 2009年	BDG-NMR85N 2,990cc 水9000	ホースカー積載 定員6名 ディーゼルエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H21.9	無給脂型
第13分団 (大工町)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 に 6772	日 産 1998年	GB-SK2F23 1,990cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-555	B-3	H10. 3	無給脂型
第14分団 (川側)	消防ポンプ自動車	水戸88 す 6711	日 産 1990年	T-FGY60改 4,160cc 定員7名	ガソリンエンジン	日本機械 二段バランスタービン	A-2	H2. 12	
第15分団 (二本杉)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 7819	日 産 1998年	GB-YY101 1,990cc 定員8名	ガソリンエンジン	ラビット P-555	B-2	H10. 9	日本消防協会寄贈無給脂型
第16分団 (若栗)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 7698	日 産 1992年	T-UF22改 1,620cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H4. 2	
第17分団 (上君田)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 6813	日 産 1991年	T-UF22改 1,620cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H3. 2	
第18分団 (下君田)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 8690	トヨタ 1993年	T-YH81改 1,810cc 定員8名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H5. 3	
第19分団 (横川)	小型動力ポンプ積載車	水戸800 す 7070	日 産 2010年	PDG-SZ5F24 2,950cc 定員6名	ディーゼルエンジン	ラビット P-556	B-2	H22.2	総務省消防庁無償貸付 無給脂型
第20分団 (大能)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 5876	日 産 1989年	L-BF22改 1,590cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-407	B-3	H元. 12	
第21分団 (中戸川)	小型動力ポンプ積載車	水戸88 す 7697	日 産 1992年	L-BF22改 1,590cc 定員6名	ガソリンエンジン	ラビット P-450	B-3	H4. 2	

外 郭 団 体

高萩市山林防火普及協会

当市地域の山林面積は、157.02 平方キロメートルと広大であり、市面積の実に 81.1%を占め、市産業の主たる一翼を担っております。

近年この山林には、秋より春にかけて、焚火の不始末、タバコの投げ捨て、子供の火遊び、火入れ等により火災が多く発生しております。従来、山林火災は、年間 1~2 件にとどまっておりますが、過去には、昭和 41 年に 13 件発生(焼損面積 391.5 アール、損害額 500 万円)、昭和 42 年上半期に 9 件発生(焼損面積 410 アール、損害額 300 万円)、また、おもな事例として、昭和 14 年には 500 ヘクタールを焼失、昭和 33 年に 30 ヘクタールを焼失しています。

現在においても、上述と同等、またはそれ以上の山林火災の発生が懸念されております。そこで、山林火災の発生を防ぐため、高萩市消防本部と茨城森林管理署高萩事務所、高萩市森林組合が主体となり、昭和 42 年 8 月 26 日当協会を結成、事業を開始し、現在に至っております。

また、昭和 48 年 11 月 20 日、林野庁長官から森林国営保険事業の発展への寄与したとして表彰を授与しました。

- | | | | |
|--------|--|--|---|
| 1 会 員 | 正会員（山林所有者、愛林組合員、部分林組合員）
特別会員（利用者の有志）
名誉会員（警察、消防、森林管理署、農林関係者） | | |
| 2 資 金 | 年間 33.3 万円 | 高萩市
茨城森林管理署 高萩事務所
高萩市森林組合
山林所有者等
常陸太田林業指導所 | 5 万円
8 万円
3 万円
15.4 万円
1.9 万円 |
| 3 事業内容 | (1) 山林の火災予防の啓蒙宣伝、広報
(2) 山林の名所、要所の火気注意の看板、山火事用心標板の設置
(3) 山林パトロール、火災予防警戒
(4) 山林防火監視員の配置と活用
(5) 消防活動用機械器具（山林防火用）の整備、訓練
(6) 功労者の表彰など
(7) 婦人消防クラブ、緑の少年団への協力 | | |
| 4 会 長 | 細金 秀隆（消防団長） | | |

高萩市防火管理者協議会

当管内の防火対象事業所の防火管理者は、各々の事業所の防火管理について努力されているが、最近の火災の現況から小都市の事業所といえども安閑としておれない状況にあることにかんがみ防火管理者が互いに防火管理の技術について研究、情報の交換を行うと共に、消防機関と密接なる連絡を保持することが災害の未然防止及び損害を減少するのに必要であるとの見地から昭和42年4月に当協議会の発足をみ、事業を開始した。その後、防火管理者資格取得講習会、火災予防運動等を通じて会の進展に努めている。

- | | |
|--------|---|
| 1 会 員 | 114 事業所 |
| 2 事業内容 | (1) 防火管理についての研究、情報交換
(2) 防火管理者資格取得講習会・研修会を実施
(3) 火災予防運動の協力
(4) 各種警報器具、消火器の取扱い、避難誘導についての訓練
(5) 消防機関との連絡
(6) ポスター等の配布
(7) 会員相互の連絡協調
(8) 優良事業所及び優良防火管理者の表彰を行う
(9) 先進地の視察研修を行う
(10) その他この会の運営に必要な事業を行う |
| 3 会 費 | 会員の拠出による |
| 4 会 長 | 石 忠 (高萩ホテルクレスト) |

高萩市危険物安全協会

当会は昭和 34 年 8 月 11 日高萩地方（高萩市及び十王町）危険物安全協会として発足した。その後、消防署の発足した年の昭和 40 年 11 月 16 日、総会を開き県連合会に加入する。平成 16 年 11 月 1 日高萩市・日上市危険物安全協会と改名、その後旧十王町の脱会により、平成 20 年 4 月 1 日に高萩市危険物安全協会と改名し今日に至る。

本協会は会員相互の親睦を図ると共に危険物の取扱管理の向上を図り危険物に基因する災害を防止し、事業の円滑なる発展と社会公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

- | | |
|--------|---|
| 1 会 員 | 62 事業所 |
| 2 予 算 | 年間 899,000 円（会員の拠出による。平成 22 年 3 月 31 日現在） |
| | 年間 S1 級 34,000 円 S2 級 27,000 円 |
| | S3 級 19,000 円 |
| | A 級 17,000 円 B 級 14,000 円 |
| | C 級 12,000 円 D 級 8,000 円 |
| 3 事業内容 | (1) 危険物の取扱い管理に関する研究
(2) 関係法令の周知徹底
(3) 危険物に基因する災害予防に関する宣伝及び講習会、映画会等の開催
(4) 危険物取扱者のための講習会、講演会等の開催
(5) 関係図書を購入、頒布及び斡旋
(6) 会員の弔慰金並びに餞別金に関する事項
(7) その他本協会の目的を達成するための必要なる事項 |
| 4 会 長 | 山口 直樹（高萩商事株式会社） |

高萩市婦人消防クラブ連絡協議会

当市は面積が広く、旧高岡村は市の中心部から13~21kmの山間部にあり、昭和45年3月、地域総出で山林作業中、地域が全焼するという大火があり、これに鑑み火災予防と消防技術の練成のため、下記のとおり婦人消防クラブを結成し、万一に備え消防機械の運用などを消防団員と共に訓練している。またこれらが連絡機関として地区正副会長で高萩市婦人消防クラブ連絡協議会を結成した。

市においては、平成4年度から高萩市婦人消防クラブ連絡協議会に補助金を出して育成を図っている。

1 クラブ別会員数

(H22年3月31日現在)

名 称	設立年月日	会員数
下君田婦人消防クラブ	S46.2.6	44名
上君田婦人消防クラブ	S46.2.14	79名
中戸川婦人消防クラブ	S46.2.13	46名
大能婦人消防クラブ	H元.4.1	40名
計		209名

※平成22年3月8日を以て 横川、若栗婦人消防クラブ 廃部

- ### 2 活動内容
- (1) 役員会・総会
 - (2) 視察研修
 - (3) 幼年少年婦人防火大会
 - (4) 1日消防長パレード
 - (5) 高萩市消防出初式
 - (6) 婦人防火指導者研修会
 - (7) 軽可搬消防ポンプ定期点検
 - (8) 高萩市防災訓練

3 会 長 豊田 美恵子